

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

イラン 2020 年国際宗教自由報告書

概要

憲法では、イランをイスラム共和国と定義し、十二イマーム・ジャアファリー系シーア派イスラム教（Twelver Ja'afari Shia Islam）を正式な国教に指定している。憲法では、全ての法律及び規制は「イスラム教の基準」及びシャリアの公式解釈に基づいていなければならないと定めている。憲法では、市民は「イスラム教の基準に従って」人間的、政治的、経済的及び他の権利を享受すると定めている。刑法では、非イスラム教徒によるイスラム教徒の改宗の勧誘又は試みのほか、モハレベ（*moharebeh*）（「神への敵意」）やサブ・アル・ナビ（*sabb al-nabi*）（「預言者又はイスラム教を侮辱する行為」）を働いた者を死刑に処すると定めている。刑法によると、死刑の適用は実行犯と被害者双方の宗教に応じて変動する。法律では、イスラム教徒市民が自分の宗教的信条を変える又は放棄することを禁じている。憲法では、5つの非ジャアファリー系イスラム学校が「全面的に尊敬され」、宗教教育や特定の個人的問題に関して公式の地位を与えられるとも定めている。憲法では、ゾロアスター教徒（Zoroastrians）ユダヤ教徒及びキリスト教徒（イスラム教からの改宗者を除く）だけが、「法律の範囲内で」礼拝を行い、宗教団体を形成することを認められる公認の宗教的少数派であると定めている。オンライン報道機関のイラン・フォーカス（Iran Focus）によると、（2020年）9月10日、最高裁判所（Supreme Court）は、3回目となるが、「国家安全保障に反する行為」、「国家に反するプロパガンダ」及び「モハレベ」で起訴された7人のスンニ派（Sunni）イスラム教徒受刑者に対する死刑判決を支持した。（2020年）10月4日、クルド通信社（Kurdistan Press Agency）及びクルド系のある非政府機関（NGO）によると、治安部隊は著名なクルド人スンニ派イマームのマムースタ・ラスール・ハムゼフプール（Mamousta Rasoul Hamzehpour）をピーランシャフル（Piranshahr）市内の自宅で逮捕した。（2020）年末時点で彼の消息及び事件の状況は依然不詳であった。アブドラフマン・ボロマンド・イラン人権センター（ABC：Abdorrahman Boroumand Center for Human Rights in Iran）という、米国を拠点とする人権NGOによると、2000年1月から2020年11月にかけて、政府は少なくとも237人に身体切断の刑を言い渡し、少なくとも129件の事件で刑を実行した。（2020年）10月8日、国際人権連盟（FIDH：International Federation for Human Rights）はイランにおける極刑の使用に関する報告書を公表し、それによると、「死刑は（中略）多くの場合、イランの民族コミュニティや宗教的少数派のメンバーに対して、特にモハレベ、「現世での腐敗の拡散」、謀反、及び他の曖昧な言い回しの容疑に基づく政治的事件において使用されてきた」。ABCによると、（2020年）10月14日、ボラジャン市検察官局（Office of the Borazjan City Prosecutor）内で当局者が改宗キリスト教徒のモハンマド・レザ（ヨハン）オミディ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

(Mohammad Reza (Yohan) Omid) に対し、聖礼典用ワインを飲んだことを理由に 80 回の鞭打ちを行った。(2020 年) 11 月 22 日の複数の NGO や報道機関の報道によると、当局は国内全域で「同時作戦」を展開して数十人のバハーイ教徒 (Baha'i) の自宅を強制捜索した。(2020 年) 5 月 28 日のラジオ・ファルダ (Radio Farda) の報道によると、フーゼスタン (Khuzestan) 州の警察曰く、「タクフィリ (takfiri) (スンニ派の反体制派集団及びスンニ派の個人を指す総称) の工作員 14 人」を逮捕したとのことであった。反対派のウェブサイト、イラン・フォーカスによると、複数の人権団体が、当局が数人の宗教関連のスンニ派の教師、学生及び市民活動家を、断食 (Ramadan) 期間 (4 月後半に始まった) 中に召喚、尋問及び逮捕した、と報告した。複数の NGO によると、(2020 年) 10 月 27 日時点で 38 人のバハーイ教徒 (男性 16 人と女性 22 人) が刑務所に収監されていた。うち 26 人は当年 (2020 年) 中に収監されていた。(2020 年) 7 月、ある裁判所が、2019 年にブーシェフル (Bushehr) 市内で「体制に反するプロパガンダ」の拡散を理由に逮捕されていた 8 人の改宗キリスト教徒に判決を言い渡した。この集団に属する 1 組の夫婦に判決を言い渡した後、同裁判所は、この夫婦はキリスト教徒として、心臓及び他の病気を持つ養子縁組した娘を養育するのに適格でないという裁定を下し、同裁判所は娘をイスラム教徒とみなした。(2020 年) 5 月、議会はイスラム刑法 (Islamic Penal Code) の改正を可決し、改正には「社会の基準から逸脱する心理的操作」又は「イスラム教と矛盾するプロパガンダ」で有罪と認められた者はある「宗派」の一員と称され、投獄、鞭打ち、罰金又は死刑に処され得るという文言が含まれた。(2020 年) 11 月 9 日、最高裁判所はサバ・コルド・アフシャリ (Saba Kord-Afshari) という女性権利活動家による、ヒジャブ着用義務への抗議を理由とする実刑判決の控訴を棄却した。(2020 年) 11 月 1 日のイラン・インターナショナル (Iran International) 及び国際的人権通信社の HRANA の報道によると、当局は同年の全国大学入学試験を受験した少なくとも 17 人のバハーイ教徒について、学力は十分であるにも関わらず、高等教育を受けることを禁じた。(2020 年) 1 月の複数の NGO や報道機関の報道によると、ほぼ全ての政府関係及び他の手続に必要な、国が発行する身分証明書の申請様式は、市民がイランの公認宗教、すなわちイスラム教、キリスト教、ユダヤ教及びゾロアスター教のうち 1 つの信者として登録することのみ認める様式であった。以前の身分証明書申請様式には「他の宗教」という選択肢もあった。報道ウェブサイトのイランワイヤー (IranWire) の (2020 年) 12 月 4 日の報道によると、政府は州の司法長官宛に、法曹界のメンバーによる宗教・道徳上の違反行為、例えば就業時又はソーシャルメディア上で義務付けられているヒジャブを着用しない女性弁護士、或いはイスラム教、イスラム共和国又は最高指導者 (Supreme Leader) の原則に対する弁護士のコミットメントに関する疑念などについて報告を受け付ける、新たな弁護士監督総局 (General Office for the Supervision of Lawyers) を設立する旨の覚書を発行した。

複数の情報筋によると、非シーア派イスラム教徒や、イスラム教以外の宗教の信者、特に

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

バハーイ教徒コミュニティのメンバーは依然、社会的差別や嫌がらせに直面していた一方、雇用主はバハーイ教徒を雇わない又はバハーイ教徒を民間部門での仕事から解雇せよという社会的圧力を受けていた。複数のバハーイ教徒によると、彼らの墓地が破壊されたり荒らされたりし続けていた。イランワイヤーによると、(2020 年) 11 月前半にケルマーンシャー (Kermanshah) で行われた金曜祈祷会の際、スンニ派聖職者のムラハミド・ファラジ (Mullahamid Faraji) がヤルサニ教徒 (Yarsanis) を異端者、悪魔崇拝者 (Satanist) 及びイスラム教徒の敵と称した。イランで最上位のスンニ派聖職者、モラヴィ・アブドルハミド・イスマイールザヒ (Molavi Abdolhamid Ismaeelzahi) はソーシャルメディア上で、コム (Qom) 市内のアル・ムスタファ国際大学 (al-Mustafa International University) で学んでいる中国人シーア派学生がイランに新型コロナウイルスを持ち込んだと告発するビデオを投稿した。報道機関及び NGO の報告によると、(2020 年) 5 月 14 日、ツイッター (Twitter) 上での脅迫に続き、ある男が、ハマダン (Hamadan) 市内のユダヤ教の聖地であるエステル・アンド・モルデチャイ (Esther and Mordechai) 寺院に侵入し、墓地に放火しようとした。(2020 年) 6 月、イランに関する研究に焦点を当てるオランダを拠点とする NGO、イラン国内姿勢分析・測定グループ (Group for Analyzing and Measuring Attitudes in Iran) が ABC と共同でオンライン・サーベイを実施し、イラン社会における宗教性の劇的な変化、特に、脱宗教化の増大と、信仰や信念の多様性が認められるとのことであった。このサーベイでは、回答者のうちイスラム教徒と判明したのはわずか 40 パーセントであった。

米国はイランと外交関係を持たない。米国政府は公式声明、制裁措置及び国際的フォーラムの場での外交イニシアティブを利用して、イラン政府による宗教的少数派の虐待や礼拝制限を非難した。米国政府高官は公の場で、宗教上の理由で収監された受刑者の釈放を繰返し要求した。(2020 年) 9 月 24 日、米国は、過度の人権侵害や、自分の宗教を実践することだけを追求する人々の自由の権利の否認を理由として、サイイド・マフムード・サダティ (Seyyed Mahmoud Sadati) 裁判官、モハンマド・ソルタニ (Mohammad Soltani) 裁判官、シラーズ革命裁判所 (Revolutionary Court of Shiraz) 第 1 支部、アデル・アバド (Adel Abad) 刑務所、オルミーエ (Orumiyeh) 刑務所及びヴァキラバード (Vakilabad) 刑務所を含む数人の当局者や事業体に対して制裁措置を取った。声明文の一部に、「ソルタニ裁判官はイラン在住のバハーイ教徒に表現の自由又は信教の自由の行使に関連する疑わしい容疑による量刑を言い渡した責任を問われる」及び「オルミーエ刑務所は少数民族や宗教的少数派集団及び政治犯に対し、殴打や鞭打ちを含む虐待を行った」と記載されていた。

1999 年以降、イランは宗教の自由に対する特に深刻な侵害に関与又は係る侵害を容認したとして、1998 年国際宗教自由法 (International Religious Freedom Act of 1998) の下で

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

「特に懸念される国」(CPC : Country of Particular Concern) に指定されている。この指定には、2012 年イラン脅威削減及びシリア人権法 (TRA : Iran Threat Reduction and Syria Human Rights Act) 第 221 条(c)項における、同法第 402 条(c)(5)項の定めるところによる、深刻な人権侵害との関連で同法第 221 条(a)(1)(c)項の下で特定される個人に対する渡航制限の継続という制裁措置が付帯した。

第 1 節 宗教別人口統計

米国政府はイランの人口を 8,500 万人と推定している (2020 年中頃の推定)。イラン政府の推定によると、イスラム教徒が人口の 99.4 パーセントを占め、うち 90~95 パーセントがシーア派で、5~10 パーセントがスンニ派、そのほとんどがトルクメン人 (Turkmen)、アラブ人 (Arabs)、バローチ人 (Baluchis) 及びクルド人 (Kurds) で、それぞれ北東部、南西部、南東部及び北西部の州で暮らしている。アフガン (Afghan) 難民、経済移民及び避難民スンニ派人口のかんりの割合を占めるが、アフガン難民人口をスンニ派とシーア派に区分する正確な統計は入手不能である。スーフィズム (Sufism) を実践するイスラム教徒の数に関して入手可能な公式統計はないが、非公式の報告によると推定数百万人である。

米国政府の推定によると、人口の残り 1 パーセント未満を構成する集団にはバハーイ教徒、キリスト教徒、ヤルサニ教徒、ユダヤ教徒、サービア・マンダヤ教徒 (Sabean-Mandaeans) 及びゾロアスター教徒が含まれる。イスラム教徒以外の少数派で最も大きいのはバハーイ教徒、キリスト教徒及びヤルサニ教徒の 3 つである。

ヒューマン・ライツ・ウォッチ (Human Rights Watch) のデータによると、バハーイ教徒は少なくとも 30 万人いる。

政府所管のイラン統計センター (Statistical Center of Iran) によると、イランには 117,700 人のキリスト教徒がいる。しかし、一部の推定が示唆するところ、実際の人数は報告よりはるかに多いと考えられる。世界キリスト教徒データベース (World Christian Database) の統計によると、約 547,000 人のキリスト教徒がいる。エラム宣教団 (Elam Ministries) というキリスト教徒団体の推定によると、キリスト教徒数は 30 万人~100 万人の範囲と考えられる。

アッシリア系 (Assyrian) とカルデア系 (Chaldean) の総キリスト教徒人口に関するアッシリア教会による推定では、合計数を 7,000 人としている。福音派集団を含むプロテスタント諸宗派も存在するが、人数に関して信頼できるデータはない。イラン国外のキリスト

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

教団体は、プロテスタント・コミュニティの規模に関して不賛成で、一部の推定では1万人未満と見積もっている一方、オープン・ドアーズ USA (Open Doors USA) など他の団体は80万人を超えると推定している。報告によると、プロテスタントや、イスラム教からキリスト教への改宗者が多数、密かに活動している。

ヤルサニ教徒の公式統計はないが、HRANA 及びイラン人権センター (CHRI : Center for Human Rights in Iran) の推定によると、最大 200 万人いる。ヤルサニ教徒は主にロレスターン (Loristan) 地域とクルド人地域に居住している。

イランのイラン人キリスト教徒との接触を維持しているアルメニア系 (Armenian) キリスト教徒からの最近の推定によると、彼らの現在の数は約 4 万~5 万人で、これは 1979 年以前に推定されたピーク時の 30 万人より大幅に少ない。イランのローマ系 (Roman) キリスト教徒の数は推定 21,000 人である。

ゾロアスター教徒集団及び政府運営のイラン統計センターによると、人口には約 25,000 人のゾロアスター教徒が含まれる。

テヘラン・ユダヤ人委員会 (Tehran Jewish Committee) によると、約 9,000 人のユダヤ人がいる一方、イランのユダヤ人コミュニティ代表者は、2018 年の PBS ニュース・アワー (PBS News Hour) による取材時にユダヤ人の数を 15,000 人と推定した。

人口には、政府系メディアによると、14,000 人のサービア・マンダヤ教徒が含まれる。

2011 年の国勢調査によると、無宗教者の数は 2006 年から 2011 年にかけて 20 パーセント増え、これは学术界及びその他による、イラン在住の無神論者、不可知論者、非信奉者及び宗教的無派閥者の数が増えているという所感を裏付けるものである。しかしこれらの集団は大抵、イランに関するアムネスティ・インターナショナル (Amnesty International) の報告書に記載されているとおり、公的に身分を明かさず、何故なら無神論者であると告白する人々は「背教」を理由に恣意的な拘禁、拷問及び死刑のリスクを負うからである。

第 2 節 政府による宗教の自由の尊重の現状

法的枠組

憲法ではイランをイスラム共和国と定義し、十二イマーム・ジャアファリー系シーア派イスラム教を正式な国教に指定している。憲法では、全ての法律及び規制は「イスラム教の

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

基準」及びシャリアの公式解釈に基づいていなければならないと定めている。憲法では、市民は「イスラム教の基準に従って」あらゆる人間的、政治的、経済的、社会的及び文化的権利を享受すると定めている。

憲法では個人の考えの調査を禁じており、何人も「ある意見の持ち主であるという理由だけで尋問及び攻撃の対象」とされてはならないと定めている。法律では、イスラム教徒市民が自分の宗教的信条を変える又は放棄することを禁じている。認められている改宗は他の宗教からイスラム教への改宗のみである。イスラム教からの改宗はシャリアの下で背教とみなされる場合があり、これは死刑に処せられ得る犯罪である。法律の下、イスラム教徒である父親の子はイスラム教徒である。

法律により、非イスラム教徒は公の場での説得又はイスラム教徒の改宗の試みを行ってはならない。法律ではこれらの活動が改宗勧誘とみなされ、死刑に処せられる場合がある。加えて、市民はキリスト教徒、ゾロアスター教徒又はユダヤ教徒として認識されない場合、教会での礼拝、又は十字架など宗教的シンボルの着用など、公の場での宗教的表現を行ってはならない。政府は、未公認の宗教団体に属する外国人についてはいくつか例外を設けている。

刑法では、モハレベ（オックスフォード・イスラム教辞書（*Oxford Dictionary of Islam*）によると、コーランの用法で言うところの「社会的及び政治的福利を脅かす非信奉者又は不公正な人々によって引起こされる腐敗した状況」、フィサド・フィル・アルツ（*fisad fil-arz*）（背教又は異端を含む「現生での腐敗」）、及びサブ・アル・ナビ（「預言者の侮辱」又は「神聖なるもの（イスラム）の侮辱」）を働いた者を死刑に処すると定めている。刑法によると、死刑の適用は実行犯と被害者双方の宗教に応じて変動する。

憲法では、4つのスンニ派学校（ハナフィ（*Hanafi*）、シャフィ（*Shafi*）、マリキ（*Maliki*）及びハンバリ（*Hanbali*））とシーア派のザイディ（*Zaydi*）イスラム学校を「全面的尊敬に値する」と定め、信徒は自由に宗教的慣行を行うことができる。憲法では、これらの学校は宗教教育及び特定の個人的問題（婚姻、離婚及び相続を含む）に関して独自の法理学に従うことができる、と定めている。

憲法では、ゾロアスター教徒、ユダヤ教徒及びキリスト教徒だけが、公認の宗教的少数派集団であると定めている。「法律の限度内で」、これらの集団は宗教的な儀式や式典を行ったり、宗教団体を結成することを許可される。また、これらの集団はそれぞれ独自の宗教規範に従って個人的問題や宗教教育に自由に対処することもできる。政府は、これら3つの集団の1つの登録メンバーでない市民、又は家族が1979年より前はキリスト教徒であ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ったことを証明できない市民をイスラム教徒とみなす。

市民がイスラム教から他の宗教に改宗することを法律で禁じていることから、政府はアルメニア系キリスト教徒又はアッシリア系キリスト教徒である市民のキリスト教（これらの集団がイランではイスラム教より早くから存在していたため）、あるいは本人又は家族が1979年革命以前にキリスト教徒であったことを証明できる市民のキリスト教のみ認めている。政府はサービア・マンダヤ教徒もキリスト教徒と認識しているが、サービア・マンダヤ教徒は自分達をキリスト教徒と捉えているわけではないとのことである。政府は大抵、ヤルサニ教徒を、スーフィズムを实践するシーア派イスラム教徒と捉えているが、ヤルサニ教徒はヤルサニ教を全く異なる信仰であるとしている（アール・エ・ハク（Ahl-e-Haq）又はカカイ（Kakai）として知られる）。ヤルサニ教徒は政府のサービスを受けるために自主的にシーア派として登録する場合もある。政府は福音派プロテスタントをキリスト教徒と認めていない。

公認の宗教的少数派の1つに属する市民は当局に登録しなければならない。登録すると、宗教上の目的でのアルコールの使用など、一定の権利が与えられる。教会に通う人々が登録しない場合又は未登録者が教会での礼拝に参加すると、当局が教会を閉鎖する又は教会指導者を逮捕する可能性がある。法律ではキリスト教への改宗者をキリスト教徒と認めていない。これらの人々は登録することができず、キリスト教徒コミュニティのメンバーとして認められた人々と同じ権利を与えられない。

最高指導者（ヴェラヤーテ・ファギーフ（*Velayat-e Faqih*）、イスラム法学者の守護者）はイランの国家元首であり、司法管轄外の特別聖職者裁判所を監督するが、これらは憲法で規定されているわけではない。これらの裁判所は、それぞれシーア派イスラム教法学者が所長を務め、司法機関の範囲外で運営され、政府の政策と一致しない政治的言明や非宗教的活動を含む、聖職者による犯罪を捜査する。これらの裁判所はイスラム教の法的出典の解釈に基づいて裁定を下す。憲法では司法機関について、「あらゆる種類の不健全な関係や繋がりとは無縁な独立的権限」を有すると定めている。政府は裁判官を「宗教的基準に従って」任命する。

文化・イスラム指導省（Ministry of Culture and Islamic Guidance）と情報・治安省

（MOIS：Ministry of Intelligence and Security）が宗教的活動を監視する。イスラム革命防衛隊（IRGC：Islamic Revolutionary Guard Corps）も教会を監視する。

憲法では報道の自由を定めているが、「イスラム原理又は公衆の権利に対して有害」である場合は例外である。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

教育省（Ministry of Education）は公立学校の宗教関連カリキュラムを決定する。学校のカリキュラムは全て、公立私立を問わず、シーア派イスラム教の教義に関する課程を含んでいなければならない。全ての生徒が、次の教育レベルに進学するには、大学に至るまで、この課程に合格しなければならない。スンニ派の学生及び公認の少数派宗教集団に属する学生は、シーア派イスラム教に関する課程を受講し合格しなければならないが、独自の宗教的信念に関する別の課程を受講することもできる。大学入試に合格するには、志願者は自信の宗教的所属に基づくイスラム教、キリスト教又はユダヤ教の神学に関する試験に合格しなければならない。

公認の少数派宗教集団は、スンニ派イスラム教徒を除き、私立学校を運営することができる。教育省は公認の少数派宗教集団が運営する私立学校を監督し、特定のカリキュラム要件を課す。同省は、授業で使用する全ての教科書（宗教関連のテキストを含む）を承認しなければならない。これらの学校は独自の宗教指導をペルシャ語（Farsi）以外の言語で行うことができるが、当局はその内容も承認しなければならない。少数派コミュニティはテキストをペルシャ語に翻訳して公式審査を受ける費用を負担しなければならない。そうした私立学校の校長は、公式の国教に対する忠誠心を実証しなければならない。この要件は、ゴジネシュ（gozinesh）審査として知られ、政府のイデオロギー及び制度の遵守状況のほか、シーア派イスラム教の公式解釈に関する知識を判断するための評定である。

法律では、バハーイ教徒が独自の教育機関を創設又は運営することを禁じている。科学・研究・技術省（Ministry of Science, Research, and Technology）は省令により、大学に対し、バハーイ教徒を高等教育へのアクセスから除外すること、又は彼らの宗教的所属が判明したら退学処分とすることを要求している。政府規制では、バハーイ教徒は自らをバハーイ教徒であると名乗らない場合に限り大学入学を許可される、と定めている。大学入学試験に登録するに当たり、バハーイ教徒の学生は基本的な多肢選択式の質問に回答し、バハーイ教以外の宗教（例えばイスラム教、キリスト教、ユダヤ教又はゾロアスター教）の信者であると名乗らなければならない。

憲法によると、民選で選ばれ最高指導者から承認された、敬虔さと宗教関連知識を含む資格を有する 86 人の聖職者から成る専門家会議（Assembly of Experts）に属するイスラム教学者が、最高指導者を選出する。イスラム教のしきたりを「保護」し、イラン国会（Islamic Consultative Assembly）（すなわち議会又はマジュレス（Majles））によって可決される法制がイスラム教と両立することを確保するため、最高指導者から任命される 6 人のシーア派聖職者及び司法機関から推薦される 6 人のシーア派法学者から成る監督者評議会（Guardian Council）が、全ての法制を審議し、承認しなければならない。監督者評議

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

会は、専門家会議、大統領（President）及び議会の候補者全員を厳しく吟味し、それらの機関の選挙を監督する。シーア派イスラム教徒でない者は最高指導者又は大統領への就任を禁じられるほか、専門家会議、監督者評議会、又は公益判別会議（Expediency Council）（法制を巡る議会と監督者評議会の間での争議に関するイランで最上位の裁定機関）のメンバーになることも禁じられている。

憲法では、イスラム教と矛盾する法律を議会が可決することを禁じており、また、政治制度又は法制度における「イスラム教の性格」に関連する、又は十二イマーム・ジャアファリー系シーア派イスラム教を公式宗教とする規定に関連する憲法規定を改正してはならないと定めている。

非イスラム教徒は、代表機関に選出されること、あるいは政府、情報機関又は軍隊の上級職に就くことができないが、例外として議会の 290 議席のうち 5 議席は憲法により、公認の宗教的少数派向けに確保されている。2 議席がアルメニア系キリスト教徒、1 議席がアッシリア系とカルデア系キリスト教徒の合同、1 議席がユダヤ教徒、1 議席がゾロアスター教徒の議席として確保されている。

憲法では、後任のスニ派イスラム教の 1 つの宗派の信徒が過半数を占める地域において、地元規制は地元評議会の管轄の範囲内でその宗派に従って制定され、他の宗派の信徒の権利を侵害しないものとするとして定めている。

憲法によると、裁判官は、成文法に基づいて事件の判決を下すべきであるが、そのような法律が存在しない場合には「権威的なイスラム教の原典及び真正なファトワ（正しいイスラム法解釈）」に基づいて判決を下すべきである。

憲法では、政府は「非イスラム教徒がイスラム教とイスラム共和国に対抗する陰謀又は行為を行っていない限り、それらの非イスラム教徒をイスラム教の正義と公正の原則に従って取扱い、それらの者の人権を尊重しなければならない」と定めている。

法律では、「ブラッドマネー」又はディヤ（*diyeh*）を、殺人、人身傷害又は財産損害の被害者となったイスラム教徒及び公認の宗教的少数派の家族への補償として徴収することを認めている。しかし、バハーイ教徒の家族は「ブラッドマネー」を受け取る権利を与えられない。この法律では、公認の宗教的少数派及び女性については「ブラッドマネー」をイスラム教徒男性の半分に減ずるとも定めている。女性が男性と同額の「ブラッドマネー」を受け取る権利を与えられるのは、自動車事故で生命が失われた場合の請求に限られ、殺人など他の死亡例は対象外である。人身傷害の場合、法律によると、特定の男性臓器（例

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

えば辜丸)は、女性の全身より価値が高い。

刑法では、窃盗に対してハドゥド (*hadud*) という (シャリアによって義務付けられる) 刑罰を定めており、この刑罰には右手の指の切断、左足の切断、終身刑及び死刑が含まれるほか、他の犯罪に対しては最大 99 回の鞭打ち又は石投げの刑を定めている。

法律により、非イスラム教徒は、司法機関、治安業務 (正規の軍隊とは区別される)、又は公立学校の校長に就くことができない。当局者は選出公職の候補者及び公共部門雇用の応募者を、本人のイスラム教遵守状況とイスラム教知識、及びイスラム共和国への忠誠心に基づいて選別する (ゴジネシュ審査要件) が、公認の宗教的少数派のメンバーは、これらの忠誠心要件を満たせば、より下位の政府職員になることができる。政府職員は、イスラム教の原理とルールを遵守しない場合、処罰の対象となり、場合によっては解雇される、又は特定のセクターで働くことを禁じられる。

政府はバハーイ教徒をあらゆる政府雇用から排除し、バハーイ教徒が政府の社会年金政府度に参加することを禁じている。バハーイ教徒は傷害又は犯罪の被害に遭っても補償を受けることができず、財産を相続することもできない。最高指導者からの宗教的ファトワでは市民に対し、バハーイ教徒とのあらゆる取引を回避することを奨励している。

政府はバハーイ教徒の婚姻又は離婚を認識しないが、民事上の婚姻証明は認める。この証明は、婚姻証明の役割を果たし、夫婦の連帯を基本的に認めるものであるが、婚姻争議における法的保護を与えるものではない。

公認の宗教団体は、それぞれの宗教法に従って婚姻契約書を発行する。

憲法では、イスラム教又は公認の宗教的少数派の 1 つに基づく政党の結成を認めているが、その党が、他にも規定がある中で特に「イスラム教の基準」に違反していないことが条件である。

憲法では、軍はイスラム的でなければならない、イスラム教の理想に献身しなければならない、そしてイスラム革命の目的に献身する者を徴用しなければならない、と定めている。正規の軍隊に加え、IRGC も、国内外におけるイスラム教の革命的性質を支持する責務を負う。法律では、宗教的所属に基づく兵役免除を規定していない。法律では、軍隊において非イスラム教徒がイスラム教徒より高い権限を有する職位に就くことを禁じている。後任の宗教的少数派のメンバーは、大学教育を受けていれば、義務的兵役期間中に士官になることができるが、義務的兵役期間を過ぎても勤務を継続して職業軍人士官となることは

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

できない。

イランは市民的及び政治的権利に関する国際規約（International Covenant on Civil and Political Rights）の締約国であるが、批准時に、「当該条約における、有効なイスラム法及び国際法制と両立しない如何なる規定又は条項も適用しない」全般的留保を締結した。

政府の慣行

宗教と民族性が密接に関連することが多いため、多くの事件を単に宗教上の身分に基づくものとして分類するのは困難であった。

多数の国際人権 NGO によると、政府は、反体制派、政治改革派及び平和的広義活動家を、「神に対する敵意」や反イスラム的プロパガンダの罪で有罪とし、処刑した。アムネスティ・インターナショナル及びヴォイス・オブ・アメリカ（VOA：Voice of America）によると、（2020 年）6 月 10 日、ある当局者が、ヘダヤト・アブドラフプール（Hedayat Abdollahpour）というスンニ派クルド人活動家の家族に対し、彼を（2020 年）5 月 21 日頃にオシュナヴィーエ（Oshnavieh）の町で処刑したと伝えた。当局はその後、彼が（2020 年）5 月 11 日に「硬い又は鋭利な物体にぶつかった」結果として死亡したと説明する死亡証明書を家族に付与したが、この文言は過去にアムネスティ・インターナショナルが文書に記載したことがあり、それが銃撃による死亡の証明書に使われた。当局は 2016 年にアブドラフプールを、イラン・クルド民主党（Kurdish Democratic Party of Iran）と IRGC の間での武力闘争との関連で逮捕していた。政府は彼を「（政府に対する）武装」及び「反体制派集団の支持」で告発したが、彼は容疑を否認していた。NGO のイランの正義（Justice4Iran）によると、当局はアブドラフプールを処刑した時点で彼の家族に通知せず、死亡の何か月も前から彼の消息は不明であったため、国際的観測筋は彼の情報を当局に求めていた。（2020）年末時点で、政府は依然、アブドラフプールの遺体をどう処理したかについて開示することを拒否した。クルド人権機構ジュネーブ支部（Kurdistan Human Rights-Geneva）によると、アブドラフプールの他に 2020 年に処刑された 9 人の政治犯のうち、「神に対する敵意」及び他の曖昧な国家安全保障上の容疑で告発されたスンニ派クルド人政治犯が 3 人（ムスタファ・サリミ（Mustafa Salimi）、サベル・シェフクー・アブドゥラー（Saber Shehkh Abdullah）及びディアコ・ラスルザデフ（Diako Rasulzadeh））と、スンニ派バローチ人が 2 人（アブドゥルバセト・デハニ（Abdulbaset Dehani）とアブドゥルハミード・バルチザヒ（Abdulhameed Baluchzahi））いた。

ラジオ・ファルダとイランワイヤーによると、（2020 年）7 月 9 日、当局は中央マシャド刑務所（Central Mashad Prison）である男性を処刑したが、この男性はソーシャルメディア

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ア利用者の助けにより、「アルコール消費」で逮捕及び起訴されたモルテザ・ジャマリ (Morteza Jamali) と特定された。イランワイヤーによると、ジャマリの弁護士曰く、彼は 2017 年又は 2018 年に逮捕され、アルコールを複数回消費したことで起訴されていた。イランのイスラム刑法の下では、アルコールの消費は「神に対する犯罪」であり、初期の刑罰は通常は鞭打ちである。しかし刑法第 179 条では、被告人は 3 回逮捕された後、死刑に処せられ得ると定めている。

米国平和研究所 (U.S. Institute of Peace) 及び複数の報道によると、(2020 年) 2 月 22 日、革命裁判所は 2019 年 11 月に反政府抗議活動に参加した 3 人の若い男性に死刑を言い渡したが、この抗議は政府による燃料価格引上げに反応して始まったものであった。政府はこれらの男性を「イラン・イスラム共和国と対決し共和国との戦争に関与することを意図する破壊行為及び放火への参加」と「神に対する敵意」で告発した。報道では 3 人の男性をアミル・ホセイン・モラディ (Amir Hossein Moradi)、サイード・タムジディ (Saeed Tamjidi) 及びモハンマド・ラジャビ (Mohammad Rajabi) と特定した。アムネスティ・インターナショナルによると、彼らの裁判は不公正で、治安部隊は「殴打、電気ショック及び逆さ吊りで拷問を加えた」。イランの司法機関報道官、ゴラム・ホセイン・アスマエイリ (Gholam-Hossein Esmaili) はこれら 3 人の抗議者の死刑判決を (2020 年) 7 月 14 日に追認し、彼らを「国外の特定の複数の集団と繋がりを持っている」との理由で告発した。市民はソーシャルメディアに「DoNotExecute」(処刑するな) というハッシュタグを使用して様々な投稿を行った。(2020 年) 7 月 19 日、イランの司法当局は処刑を一時停止すると述べた。

CHRI によると、政府は 2 人のスンニ派バローチ人受刑者、ベフナム・リギ (Behnam Rigi) とショアイブ・リギ (Shoaib Rigi) をスィースターン・バルーチェスターン (Sistan and Baluchistan) 州ザヘダン (Zahedan) の中央刑務所で (2020 年) 12 月 19 日に処刑したと発表した。(2020 年) 12 月 20 日、政府は 3 人目のバローチ人受刑者で 2012 年に逮捕されていたアブドルバセット・ケシュト (Abdolbaset Khesht) を、同州ドザブ (Dozap) に中央刑務所で処刑した。当局はこれらの男性を、スンニ派イスラム教徒武装集団への所属を理由に告発した。複数の NGO 及び報道機関によると、他に 3 人のスンニ派受刑者がザヘダン市で収監されており、処刑される危険が差し迫っていた。

イラン・フォーカスによると、(2020 年) 9 月 10 日、最高裁判所は 3 度目となる 7 人のスンニ派受刑者に対する死刑判決を支持した。当局は受刑者のファラード・サリミ (Farhad Salimi)、カッセム・アブステフ (Qassem Absteht)、ダヴード・アブドラヒ (Davood Abdollahi)、アユブ・カリミ (Ayub Karimi)、アンワール・ケズリ (Anwar Khezri)、コスロウ・ベシャラト (Khosrow Besharat) 及びカムラン・シーカ (Kamran Sheikha) を、

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2009年に逮捕した後11年間、ウルミア（Urmia）、エヴィン（Evin）及びラジャイ・シャフル（Rajai Shahr）の刑務所に収監していた。政府はこれらの男性を「国家安全保障に反する行為」、「国家に反するプロパガンダ」及び「モハレベ」で告発した。

クルド通信社と、あるクルド系 NGO によると、治安部隊はクルド人スンニ派イマームのマムースタ・ラソウル・ハムゼフプールを（2020年）10月4日にピーラーンシャフル市内で逮捕した。当局はハムゼフプールの自宅を搜索し、逮捕した。報道によると、ハムゼフプールは州内で著名な聖職者の1人とされていたが、政府は過去に彼を数回逮捕していた。（2020）年末時点で、彼の消息と事件の状況は依然不詳であった。

ABCによると、2000年1月から2020年11月にかけて、政府は少なくとも237人に身体切断の刑を言い渡し、少なくとも129件で刑を実行した。この報告に関してコメントしたアムネスティ・インターナショナルによると、「実際の被害者数はもっと多いと予想され、何故なら多数の事件が未報告と考えられているからである」。この期間中、ABCによると、政府は少なくとも2,134人に鞭打ちを加え、これに少なくとも児童が17人含まれていた。ABCによると、これらの数は、平均で見ると、過去20年間に当局が2か月おきに少なくとも1人の指を切断し、毎週少なくとも2人に鞭打ちを加えていたことを意味した。

アムネスティ・インターナショナルによると、IRGCの諜報部隊がヤルサニ教徒のクルド人活動家でドキュメンタリー映画製作者のモズフガン・カヴーシ（Mozhgan Kavousi）をマーザンダラーン（Mazandran）州ノシャフル（Noshahr）の自宅で逮捕し、これは主に彼女が2019年11月の抗議活動についてソーシャルメディアに投稿したこととの関連であった。IRGCの諜報士官はカヴーシをマーザンダラーン拘禁施設に収監し、そこで彼女は長期間にわたり独房監禁された。ノシャフルの革命裁判所第1支部は、彼女のインスタグラム（Instagram）アカウントでの2件の投稿との関連で「体制に反するプロパガンダの拡散」及び「イランの秩序と治安を乱す人々の扇動」で彼女を有罪とし、懲役5年9か月を言い渡した。（2020年）5月に彼女はエヴィン刑務所で服役し始め、（2020）年末時点で他に35人の良心の女性囚人がいた。

アムネスティ・インターナショナルによると、（2020年）3月と4月、イラン全土の少なくとも8か所の刑務所で数千人の受刑者が、多くはスンニ派のアフワーズ・アラブ人、クルド人及びアゼルバイジャン系トルコ人の少数民族が居住する州で、新型コロナウイルス感染の不安を巡る抗議活動を企てた。報告によると刑務所当局と治安部隊は実弾使用と催涙ガスの使用で応答して抗議を抑制し、2か所の刑務所で約35人の受刑者を殺害したほか、数百人を負傷させた。受刑者の家族、ジャーカンド、及びアフワーズ・アラブ人の

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

人権活動家や組織からの報告によると、(2020 年) 3 月 30 日と 31 日、治安部隊は過剰な武力を行って抗議を鎮圧した結果、最多で 15 人がセピダール (Sepidar) 刑務所で、20 人がシェイバン (Sheiban) 刑務所で死亡し、いずれもフーゼスターン州アフヴァズ (Ahvaz) 市内の刑務所であった。アムネスティ・インターナショナルによると、両刑務所の外部から撮影され、ソーシャルメディアサイト上でシェアされた多数のビデオから、建物から煙が立ち昇る一方で銃声が聞こえる様子が分かった。当局はアラブ人少数派の権利活動家、モハンマド・アリ・アムーリネジャド (Mohammad Ali Amourinejad) と他の数人の受刑者 (アフワーズ・アラブ人の教育的及び文化的権利を促進したことを背景に「神に対する敵意」の罪により終身刑で服役中の良心の囚人を含む) を、騒動の後、シェイバン刑務所から移送した。(2020) 年末時点で、政府は依然、これらの受刑者を不明な場所で隔離拘禁していた。

(2020 年) 10 月 8 日、世界死刑廃止デー (World Day against the Death Penalty) に先立ち、国際人権連盟 (FIDH) はイランにおける極刑の使用に関する報告書を公表し、それについて「イランの人権記録に残る消せない染み」であると述べた。同報告書の記述によると、「死刑は (中略) 多くの場合、イランの民族コミュニティや宗教的少数派のメンバーに対して、特にモハレベ、「現世での腐敗の拡散」、謀反、及び他の曖昧な言い回しの容疑に基づく政治的事件において使用されてきた」。FIDH の報告書によると、「これらの民族集団と宗教集団は自分達の政治的、市民的、経済的、社会的及び文化的権利に関して広範囲な長期間に及ぶ差別を受け、それが中央政府に対する恨みに繋がった。様々な集団が過去 40 年間、少数民族居住地域で反対活動に参加し、時には武器を手にしてきた。彼らの苦情に対処するどころか、イラン当局は高圧的な措置で応答し、これには大規模な死刑の実行も含まれる。(中略) [処刑の対象とされてきた] 宗教的少数派のメンバーには、西アゼルバイジャン (West Azerbaijan) 州、クルディスタン (Kurdistan) 州及びスィースターン・バルーチェスターン州のスニ派イスラム教徒から成るいくつかの集団、西アゼルバイジャン州のシーア派アール・エ・ハク分派 [ヤルサニ教徒]、及びバハーイ教徒が含まれる。」

多数のスニ派住民が居住する、クルディスタン州、フーゼスターン州及びスィースターン・バルーチェスターン州を含む諸州の住民によると、司法当局や治安部隊員による、超法規的殺害、恣意的な逮捕、及び拘禁中の拷問などの抑圧が続いた。また彼らは、差別 (宗教的権利の抑圧を含む) 基本的政府サービスの拒否、及びインフラ整備事業への不十分な資金拠出も報告した。イラン・ヒューマン・ライツ (Iran Human Rights) 及び他の人権活動家が引き続き、スニ派受刑者、特にクルド人、バローチ人及びアラブ人の処刑が不釣り合いに多いと報告した。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

(2020 年) 5 月 6 日のイランワイヤーと代表なき国家民族機構 (UNPO : Unrepresented Nations and Peoples Organization) の報道によると、治安部隊が 2 人のスンニ派バローチ人兄弟、18 歳のモハンマドと 20 歳のメフディ・プーリアン (Mehdi Pourian) を、スィースターン・バルーチェスターン州の州都であるイランシャフル (Iranshahr) 市内の自宅で銃殺した。報告によると、治安部隊はこの事件で 17 歳のダニエル・ブラホヴィ (Daniel Brahovi) も殺害した。イランシャフルの検察官が地元メディアに語ったところによると、これら 3 人は「有名でよく知られた悪党」で、「武器弾薬が彼らから押収された」。死亡した 3 人の家族は、関係した治安部隊を相手取って訴訟を起こしたが、応答を得られなかった。ある報告書によると、地元の警察と検察官がプーリアン家に対し、訴訟を続けるなら殺すと言って脅迫した。

ABC によると、(2020 年) 10 月 14 日、ボラジャン市検察官局の当局者が改宗キリスト教徒のモハンマド・レザ (ヨハン) オミディに対し、聖礼典用ワインを飲んだことを理由に 80 回の鞭打ちを行った。当局は (2020 年) 8 月にオミディをエヴィン刑務所から釈放し、その前に彼は「自宅教会の設立」と「ユダヤ主義キリスト教の促進の罪で 2 年間服役していた。(2020 年) 9 月、彼は 2 年間の国内追放に服するためブーシェフル州ボラジャンに移動した。テヘラン革命裁判所はオミディとイラン教会 (Church of Iran) 派の仲間であるユッセフ・ナダルカニ (Yussef Nadarkhani)、ザマン (サヒーブ) ファダイ (Zaman (Saheb) Fadai) 及びモハンマド・アリ (ヤッセール) モサイエブザデフ (Mohammad Ali (Yasser) Mosayebzadeh) に対し、2017 年にそれぞれ懲役 10 年を言い渡していた。(2020 年) 6 月に行われた再審で、裁判所はナダルカニとファダイの量刑をそれぞれ 6 年に減刑し、オミディの量刑を 2 年に減刑した。(2020 年) 11 月 15 日、英国を拠点とするアーティクル 18 (Article 18) という、イランでの宗教の自由に焦点を当てる NGO によると、当局はファダイをシャヒド・モガダス (Shahid Moghadas) 革命裁判所に召喚し、そこで彼は、聖礼典用ワインを飲んだことを理由に 80 回の鞭打ちを受けた。

CHRI、HRANA など複数の人権 NGO、及びゴナバディ・スーフィー (Gonabadi Sufi) 教団の修道僧、マジズーバン・ノール (Majzooban Noor) の公式ウェブサイトによると、当年 (2020 年) 中ずっと、カルカック女性刑務所 (Qarchak Prison for Women) は極度に劣悪な状態にあり、例えばシーア派の刑務官が全ての受刑者に対し、宗派を問わず、チャドル (イスラム教徒女性が着用するマント) を頭部からつま先まで覆う衣服として使用するよう要求していた。

複数の人権活動家によると、政府は依然、イスラム教から改宗したキリスト教徒を、恣意的逮捕、身体的虐待及び他の形態の過酷な取扱いの対象にしていた。アーティクル 18 によると、(2020 年) 1 月 12 日、当局は改宗キリスト教徒のファテメフ (メアリー) モハン

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

マディ（Fatemeh (Mary) Mohammadi）をテヘラン中心部での抗議活動の際に逮捕してヴォザラ（Vozara）拘禁施設へ連行し、そこで男性と女性の刑務官が非常に激しく彼女を殴打した結果、彼女は3週間にわたり見て分かる打撲を負った。拘禁施設職員は彼女を強制的に極寒の屋外に座らせ、逮捕後24時間経つまで食事を与えず、裸にして所持品検査をした。彼らはモハンマディをカルカック刑務所に移送し、そこでは彼女の保釈金が約9,500万リアル（2,300ドル）に設定されたが、これはイラン人の平均年収を上回る金額であった。モハンマディは既に6か月、「国家安全保障に反する行為」と「体制に反するプロパガンダ」を容疑とする自身のキリスト教徒としての活動を理由に刑務所で服役していた。VOAによると、（2020年）4月2日、モハンマディは自分のインスタグラムのフォロワーに、拘禁中に「ひどい状況」で46日間を過ごした、と伝えた。彼女曰く、当局は（2020年）1月の抗議活動への参加を理由に懲役3か月と鞭打ち10回を彼女に言い渡したが、処罰は1年間一時停止され、彼女は自由のままでいることができた。

イラン・イスラム共和国における人権状況に関する国連特別報告者、ジャヴァイド・レーマン（Javaid Rehman）は（2020年）7月の報告書の中で、アゼルバイジャン系トルコ人、クルド人及びアフワーズ・アラブ人のコミュニティ出身の政治犯及び良心の囚人が多数報告されていることに懸念を表明し、これらの人々の多くは宗教的少数派に属していた。

（2020年）5月6日にアムネスティ・インターナショナルが報告したところによると、シラーズ市内のアデル・アバド（Adel Abad）刑務所に収監されていたホセイン・セパンタ（Hossein Sepanta）受刑者が危篤となり、これは彼が脊髄障害の適切な治療を受けることを当局が拒否したためであった。CHRIが2019年に報告したところによると、彼のハンガーストライキへの対応として、刑務所当局は、イスラム教からゾロアスター教に改宗したセパンタをアデル・アバド刑務所の「処罰課」に移送していた。刑務所内のある情報筋によると、尋問者がセパンタを激しく殴打し、その後、彼は歩行時にバランスを保つのが困難になった。セパンタは「国家に反するプロパガンダ」及び「国家安全保障に反する集会と共謀」の罪で2013年に14年間の服役を開始していた。

複数の人権活動家によると、バローチ人は、スンニ派の宗教実践者及び少数民族の両方として、政府から差別を受けていた。バローチ人の権利を唱道する複数の活動家によると、ジャーナリストや人権活動家に対する恣意的逮捕、身体的虐待及び不当な裁判が続いていた。彼らによると、当局は頻繁に、受刑者の家族に対し、沈黙を保つよう圧力を掛けた。国連人権高等弁務官事務所（OHCHR：UN Office of the High Commissioner for Human Rights）とアムネスティ・インターナショナルは当局に対し、ジャヴィド・デフガン（Javid Dehghan）というバローチ人男性の処刑の一時停止を要求した。彼はジェイショ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ル・アドル（Jaish ul-Adl）と称するサラフィ主義（Salafi）のテロリスト集団のメンバーで、2015年にIRGC 作員2人を射殺したことを、拷問を受けながら強制的に自白させられていた。OHCHRによると、イランでは（2020年）12月に「少なくとも28件」の処刑が立て続けに行われていた。あるOHCHR報道官曰く、「これには少数民族及び宗教的少数派、特にクルド人、アフワーズ・アラブ人及びバローチ人のコミュニティのメンバーに対する一連の処刑が含まれていた。」

イランワイヤーによると、（2020年）12月15日、過去に何度も政府を批判していたアヤトラ・マフムード・アムジャド（Ayatollah Mahmoud Amjad）がビデオを公表し、このビデオはある反体制派ジャーナリストの政府による処刑に抗議し、最高指導者アリ・ハメネイ（Ali Khamenei）を2009年以降のイランでの流血について非難するものであった。彼は仲間の聖職者や宗教学者にも、暴力について黙り続けていないよう呼掛けた。

政府は依然、多数の囚人を宗教関連の様々な容疑で収監していた。米国を拠点とするNGOの「イランのための団結」（United for Iran）が編纂した「イラン刑務所地図」（*Iran Prison Atlas*）というデータベースによると、少なくとも60人の宗教的少数派集団メンバーが、「宗教的少数派の実践者」であることを理由に投獄されたままであった。この地図のデータベースに収録された受刑者のうち、政府は少なくとも25人について、「神に対する敵意」の罪、又は政府に反対する武装集団を指す容疑（バキ（*baghi*））（当局者は近年、この言葉を「神に対する敵意」の代わりに使うことがある）で長期投獄を言い渡した、又は処刑した。当局は少なくとも43人に「最高指導者及びアヤトラ・ホメイニ（Ayatollah Khomeini）の侮辱」の罪で、また少なくとも13人に「預言者又はイスラム教の侮辱」の罪で懲役刑を言い渡した。

（2020年）5月28日のラジオ・ファルダの報道によると、フーゼスターン州の警察は「タクフィリ及び分離主義者集団の作員14人」を逮捕したと発表した。この報道によると、当局はタクフィリをスンニ派の反体制派集団及びスンニ派の個人を指す総称として使用していた。警察はこれらの逮捕者を、政府庁舎への銃撃や市内随所での反体制派集団の旗の掲揚を理由に告発した。

（2020年）11月22日の複数のNGOと報道機関の報道によると、当局は国内全域で「同時作戦」を展開して数十人のバハーイ教徒の自宅を強制捜索した。治安当局者は曖昧な言い回しの捜索令状を持って私物、携帯電話、コンピューター、ラップトップ、及び宗教関連の書籍や絵画を押収した。一部の事例では、当局者が現金や身分証明書を押収したという報告もあった。自宅を捜索されたバハーイ教徒の中には過去に服役したことがある者もあり、例えばイランのバハーイ教徒コミュニティの旧指導機関のメンバーで10年間の服

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

役後に 2018 年に釈放されたアフイフ・ナエイミ（Afif Naeimi）や、ラジャエイ・シャフル（Rajaei Shahr）刑務所でそれぞれ 4 年間服役したリアズ・ソバーニ（Riaz Sobhani）とシャーロクフ・タエフ（Shahrokh Taef）が含まれていた。

複数の人権 NGO が、劣悪な刑務所の状況や、政府が運営する刑務所に収監された宗教的少数派の虐待を報告した。（2020 年）9 月 26 日の VOA の報道によると、（2020 年）8 月以降、当局はゴナバディ・スーフイー教団修道僧、ベンハム・マフジュービ（Benham Mahjoubi）に対し、パニック障害のために家族から提供される投薬を含む医療処置を拒否し、彼をエヴィン刑務所からテヘランのラジ・アミナバード（Razi Aminabad）精神病院に強制移送した。アムネスティ・インターナショナルによると、当局はマフジュービに拷問を加え、彼の意思に反して何度も不明な物質を注射した。マフジュービの妻はソーシャルメディアに、彼が転倒して麻痺状態になった後、当局が彼をその施設に移送した、と投稿した。VOA によると、政府はマフジュービを逮捕したことがあり、その理由は、2018 年にテヘランで他の 300 人のゴナバディ・スーフイー教団修道僧と共に、彼らの指導者ノール・アリ・タバндеフ（Noor Ali Tabandeh）博士（後に 2019 年 12 月 24 日に死亡）の自宅軟禁からの釈放を要求して行われた市街抗議活動に参加したことであった。

（2020 年）5 月にゴナバディ修道僧のレザ・ヤヴァリ（Reza Yavari）が VOA に語ったところによると、当局は彼が（2020 年）4 月 1 日に赦免されフーズスターン州の州都である南西部のアフワーズ市内の刑務所から釈放された後、2 年間の国内追放の刑を開始すべく、彼を強制的にラザヴィ・ホラーサーン（Razavi Khorasan）州内の北東部のタイバード（Taybad）という町に転居させた。ヤヴァリはフーズスターン州出身で、2018 年に拘禁される前はテヘラン大学で学んでいたが、赦免が認められた後に彼を違法に強制国内追放させたとの理由で当局を告発した。ヤヴァリは VOA に、他にも 38 人の修道僧が強制国内追放されたと話し、2018 年にテヘランで行われた反政府抗議活動への関与を理由に逮捕された 300 人余りの修道僧コミュニティメンバーに含まれていた他の 8 人の修道僧活動家を政府が投獄し続けていることに懸念を表明した。（2020 年）8 月、政府から国内追放を言い渡された 4 人の修道僧が VOA に語ったところによると、彼らは、政府は国内追放の行先について予め決められたリストを維持しているわけではないとする、記者会見での政府代表者の主張を拒絶した。これら 4 人の男性曰く、政府は釈放された受刑者を、過酷な気候でイランの人口密集地や彼らの自宅から遠く離れた貧しい町に送り、そこで生活させた。

人権 NGO のヘンゴウ（Hengaw）によると、（2020 年）9 月後半、政府治安部隊が 3 人のクルド人宗教活動家、シャワシュ（フォラト）（Syawash (Forat)）、ベフザド・タライ（Behzad Talayi）及びファルシャド・ファタニ（Farshad Fatahi）を西アゼルバイジャン州

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ウルミア（Urmia）で逮捕した。政府はこれらの男性を（2020年）10月14日にウルミア中央刑務所に移送した。同NGOによると、政府がこれら3人を逮捕した理由は、「イスラム過激派集団」の代理としての宗教活動と「プロパガンダ」であった。

相変わらず、スンニ派の聖職者や礼拝参加者の逮捕及び嫌がらせの報告が寄せられた。オンライン報道機関のバローチワルナ・ニュース（Balochwana News）の（2020年）6月の報道によると、スンニ派聖職者のモラヴィ・ファズル・アル・ラーマン・クーヒ（Molavi Fazl al-Rahman Kouhi）は、ガソリン価格の急騰後に全国で反政府抗議活動が行われた後で2019年11月に彼を召喚し投獄した特別聖職者裁判所の命令に基づき、北東部のマシュハド（Mashhad）市の刑務所に収監されたままであった。クーヒは、スンニ派のバローチ人住民が大半を占めるパシャマフ（Pashamagh）という町の金曜祈祷会のリーダーを務めていた。イランのシーア派が支配的な政府を抗議活動に対する暴力的な抑圧を理由に批判する説教を彼が行った数日後、裁判所は彼を召喚し、投獄した。同報道によると、クーヒの説教では弾圧を非イラン的、非イスラム的、そして非人道的であると表した。アブドル・サッタール・ドショキ（Abdol Sattar Doshoki）という、亡命中のスンニ派権利活動家曰く、ある辛口のスンニ派聖職者を政府が明らかに恣意的に拘禁したことは、イランのスンニ派イスラム教徒少数派にとって殺伐とした将来の最近の兆候であった。

バローチワルナ・ニュースによると、治安部隊がモラウィ・モハンマド・カランドルザイ（Molawi Mohammad Qalandarzai）というスンニ派イマームを（2020年）2月27日にザヘダン市内の自宅で逮捕した。

イラン・フォーカスによると、当年（2020年）中、政府は国内でスンニ派住民の多い地域でのスンニ派の迫害を増強した。同ウェブサイトによると、複数の人権団体の報告として、当局は数名のスンニ派宗教教師、学生及び市民活動家を、（2020年）4月後半に始まった断食月の間に召喚、尋問し、逮捕した。当局は少なくとも10人のスンニ派をクルディスタン州サナンダジュ（Sanandaj）市で拘禁した。他の報告によると、サナンダジュ情報局（Sanandaj Intelligence Agency）はアリ・モラディ（Ali Moradi）というスンニ派聖職者と息子のモハンマドを、断食が始まった頃に召喚した。（2020年）4月22日、IRGCはマクトゥーム・アスカニ（Maktoom Askani）というスンニ派活動家をスィースターン・バルーチェスターン州ザヘダン市内で召喚し、尋問した。ザヘダン革命防衛隊はアブドゥル・ラウフ・ダシュティ（Abdul Rauf Dashti）という別のスンニ派活動家を召喚し、逮捕した。（2020年）4月後半の人権通信社（Human Rights News Agency）の報道によると、MOISはシャフダド・ゼヒ（Shahdad Zehi）というスンニ派聖職者をスィースターン・バルーチェスターン州サルバズ（Sarbaz）市で召喚し、尋問した。（2020年）5月21日にバローチ活動家運動（Baluch Activists Campaign）が報告したところによると、ザヘダン

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

革命防衛隊は、ペシャマグ（Peshamag）村で臨時の金曜祈祷会の長を務めていたアクラム・クヒ（Akram Kuhi）を召喚し、尋問した。同報告によると、IRGC 当局者は地元宗教学校の従業員、教師及び生徒についてクーヒに尋ねた後、（2020 年）9 月に同校から他に 4 人のスンニ派を召喚し、尋問した。

複数の NGO によると、（2020 年）10 月 27 日時点で 38 人のバハーイ教徒（男性 16 人と女性 22 人）が刑務所に収監されていた。うち 26 人（女性 19 人と男性 7 人）が 2020 年にそこに収監された。複数の NGO によると、女性が男性の倍以上多く収監されたのは偶々であったのか、あるいはバハーイ教徒コミュニティにさらなる圧力を加えようという企みの傾向の始まりを示すものなのかは不明であった。シラーズ市では（2020 年）10 月 5 日に当局が 26 人のバハーイ教徒を刑事聴聞のために召喚した。

イラン・プレス・ウォッチ（IPW : Iran Press Watch）によると、（2020 年）12 月 24 日、バンドル・アッバス（Bandar Abbas）革命裁判所第 2 支部は 8 人のバハーイ教徒に対し、「国家安全保障の阻害を意図する集会及び共謀」を理由に判決を言い渡した。6 人のバハーイ教徒が懲役 2 年、2 人が懲役 1 年を言い渡された。同裁判所は彼らが政治的及び社会的な党や団体（バハーイ教徒の晩餐会や集会を含む）に加入することを 2 年間禁じ、5 回にわたる「宗派間問題に関するカウンセリング」に参加するよう命じた。

報道によると、（2020 年）9 月 7 日、南部のホラーサーン州の裁判所が 8 人のバハーイ教徒（女性 6 人と男性 2 人）に対し、「国家安全保障にとって脅威となる違法なバハーイ教徒組織への加入」を理由に懲役刑を言い渡した。当局はこれら 8 人を、バハーイ教徒の休日の祝賀行事中に逮捕した。裁判所は被告人、すなわちアタオラ・メラキ（Ataollah Melaki）、アッティエ・サレヒ（Attiyeh Salehi）、サイード・メラキ（Saeed Melaki）、ロヤ・メラキ（Roya Melaki）、ナスリン・ガディリ（Nasrin Ghadiri）、アレゾウ・モハンマディ（Arezou Mohammadi）、ファルザネフ・ディミ（Farzaneh Dimi）及びバナフシェ・モカタリ（Banafshe Mokhatari）に、15 か月から 2 年の範囲の懲役を言い渡した。これらの人々の一部はビルジャンド（Birjand）司法当局に手紙を書き、刑務所での凄まじい新型コロナウイルス拡散を背景に服役開始を遅らせるよう要請した。しかし当局は彼らの要請を拒否し、この集団は（2020 年）10 月 20 日に服役を開始した。

（2020 年）6 月 8 日にバハーイ国際共同体（BIC : Baha'i International Community）が報告したところによると、同日までの数週間に当局は 55 人のバハーイ教徒をシラーズ、ビルジャンド、カラジュ（Karaj）及びケルマーンシャーの裁判所に召喚し、うち 26 人を審理して判決を言い渡し、11 人のバハーイ教徒をシラーズ、ガエムシャフル（Ghaemshahr）及びビルジャンドの刑務所に召喚し、3 人のバハーイ教徒をヤズド（Yazd）で逮捕し、2

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

人のバハーイ教徒をイスファハン（Isfahan）で逮捕し、直後に釈放した。シラーズでの法廷聴聞の際、ある裁判所職員が市内のバハーイ教徒を「根絶やしにする」と言って脅迫した。

クルド人権ネットワーク（Kurdistan Human Rights Network）によると、（2020 年）9 月 17 日、治安部隊がサラール・ガザリ（Salar Ghazali）とサマン・ガザリ（Saman Ghazali）の兄弟を逮捕し、MOIS 拘禁施設で 75 日間拘禁した後、マハバード（Mahabad）刑務所に移送した。（2020 年）12 月中頃、マハバード革命裁判所第 1 支部は彼らを、「クルド系野党への加入を通じた国家安全保障に反する行為」と「国家に反するプロパガンダ」の容疑で審理した。

複数の活動家や NGO によると、ヤルサニ教徒の活動家やコミュニティ指導者が依然、政府の慣行又はヤルサニ教徒コミュニティに対する差別に関する意識高揚活動への関与を理由に拘禁されたり失踪したりしていた。

IPW とイランワイヤーによると、（2020 年）5 月 2 日、IRGC 工作員が 3 人のバハーイ教徒、シャフザド・ホセイニ（Shahzad Hosseini）、息子のシャヤン・ホセイニ及びシャフザドの母親のイスファハン市内の自宅を強制捜索した。治安要員がその後、シャヤン・ホセイニを逮捕し、不明な場所に移送した。シャヤンの近親者によると、強制捜索中、複数の工作員が、家族が祈祷書を保管するために使っていた小さい木箱を捜索した。

複数のキリスト教徒 NGO によると、非アルメニア系キリスト教徒、特に福音派や他のイスラム教からの改宗者は依然、不釣り合いなレベルの逮捕や拘禁、そして高いレベルの嫌がらせや監視に遭っていた。複数の人権団体やキリスト教徒 NGO が相変わらず報告したところによると、当局はキリスト教徒を、未公認の教会のメンバーを含め、宗教的所属又は活動を理由に逮捕し、私邸での違法な「活動」又は「敵」の国々を支援したりそれらの国々から援助を受けたりしたという容疑で告発した。報告によると、多数の逮捕が宗教集会に対する警察の強制捜索の際に発生し、宗教関連財産の押収が含まれた。報道によると、当局は逮捕したキリスト教徒に激しい身体的及び精神的な虐待を加え、時には殴打や独房監禁も含まれた。複数の人権 NGO によると、政府は依然、改宗勧誘も禁じていた。

（2020 年）5 月 28 日、当局はホセイニ・カディヴァール（Hossein Kadivar）、ハリル・デフガンプール（Khalil Dehghanpour）、カマル・ナアマニアン（Kamal Naamanian）及びモハメド・ヴァファダール（Mohammed Vafadar）を召喚し、5 年間の服役を開始させた。政府はこれらの男性を 2019 年前半に逮捕した後、保釈した。これら 4 人の男性は、4 週間の期間に逮捕されたイラン教会派に属する 9 人の改宗キリスト教徒のうちの 4 人で、国家

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

安全保障を脅かす行為及びユダヤ主義の促進を理由に告発された。政府は、保釈してもらうことができなかった他の 5 人の改宗者を、2019 年の逮捕直後にエヴィン刑務所に移送した。2019 年後半、裁判所は 9 人全員を「国家安全保障に反する行為」で有罪とし、懲役 5 年を言い渡した。ある裁判所が（2020 年）2 月に上訴審で判決を支持した。

（2020 年）7 月、ある裁判所が、2019 年にブーシェフル市内で「体制に反するプロパガンダ」を理由に逮捕されていた 8 人の改宗キリスト教徒のうち 7 人に判決を言い渡した。これらのキリスト教徒の 1 人、サム・ホスラヴィ（Sam Khosravi）は、懲役 1 年とそれに続く 2 年間の国内追放を言い渡された。同裁判所は、彼の妻で看護師として働いていたマリヤム・ファラヒ（Maryam Falahi）に 8,000 万リアル（1,900 ドル）の罰金を科し、彼女が公共機関で働くことを禁じた。彼らに判決を言い渡した後、裁判所は、キリスト教徒としてこの夫婦は、2019 年前半に当時幼児だった頃に養子縁組した娘を養育するのに適格でないという裁定を下し、同裁判所は娘をイスラム教徒と捉えた。（2020 年）9 月、上訴裁判所は、娘の身体障害をよそにその判断を支持し、その結果、判決に従って、彼女が別の家族に養子として受入れられる可能性が「ゼロ」になった。

（2020 年）1 月 11 日、ある裁判所が、英国教会系（Anglican）改宗者のイスマエリ・マグレビネジャド（Ismaeli Maghrebinejad）に対し、彼が自分の携帯電話にテキスト送信された支配的聖職者の批判と見られるジョークに笑顔の絵文字で応答したことについて「神聖なイスラム教の信念の侮辱」に当たるとして、懲役 3 年を言い渡した。（2020 年）2 月 27 日、ある裁判所が彼に、携帯電話のアプリケーション上で送信された聖書の韻文を受信したことについて、「体制に敵対する集団への加入」（裁判所の文書によると「福音的ユダヤ主義」を指す）を別の容疑として懲役 2 年を言い渡した。（2020 年）5 月、ある裁判所が（2020 年）2 月の判決を支持し、「体制に反するプロパガンダ」を理由に懲役 1 年の判決を追加した。（2020 年）7 月、ある裁判所が「神聖なイスラム教の信念の侮辱」を理由とする彼の懲役 3 年の判決を上訴審で覆したが、他の 2 件の量刑は支持した。当局はマグレビネジャドを 2019 年前半にシラーズで逮捕していた。2019 年後半、当局はマグレビネジャドを逮捕した際に彼に対して起こしていた背教での告訴を取り下げた。

（2020 年）2 月、ラシュト（Rasht）市の当局は 4 人の改宗キリスト教徒、ラミン・ハッサンプール（Ramin Hassanpour）、妻のサイード（カスリン）サジャドプール（Saeede (Kathrin) Sajadpour）、ハディ（モスレム）ラヒミ（Hadi (Moslem) Rahimi）及びサキネ（メフリ）ベフジャティ（Sakine (Mehri) Behjati）を、イラン教会に属する自宅教会のメンバーであることを理由に逮捕した。（2020 年）5 月 14 日、ラシュト市内の革命裁判所は当初、保釈金を 50 億リアル（119,000 ドル）に設定した。政府はこれら 4 人をラシュト近郊のラカン（Lakan）刑務所に移送し、この時点で彼らは保釈金を納めることができなかった。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

た。1週間後、同裁判所は保釈金を20億リアル（47,600ドル）に減額し、サジャドプール、ラヒミ及びベフジャティを（2020年）5月20日に、そしてハッサンプルを（2020年）5月21日に釈放した。（2020年）8月1日、ある裁判所がこれら4人に対し、自宅教会への所属による「国家安全保障に反する行為」及び「ユダヤ主義キリスト教の拡散」を理由に懲役刑を言い渡した。ハッサンプルは懲役5年、ラヒミは懲役4年、そしてベフジャティとサジャドプールはそれぞれ懲役2年を言い渡された。

彼らの2017年と2018年の有罪判決の上訴及び「違法教会活動」に関連するそれぞれ10年と5年の判決に関連する数回の法廷審理が取消しとなった後、イランのアッシリア系ペンテコステ派（Pentecostal）教会を以前率いていたヴィクトル・ベツ・タムラズ

（Victor Bet Tamraz）と彼の妻、シャミラム・イサヴィ（Shamiram Isavi）は（2020年）8月前半に、彼らの上訴が否認されたことと、当局はそれ以上の聴聞を予定しないであろうということを知った。（2020年）8月11日、イサヴィは自身の懲役刑を開始するためにエヴィン刑務所宛に報告せよという召喚状を受取った。（2020年）8月15日、夫妻はイランから逃亡した。（2020年）9月にアーティクル18が報告したところによると、ベツ・タムラズと一緒に2017年に懲役刑を言い渡されていた改宗キリスト教徒のカヴィアン・ファラ・モハンマディ（Kavian Fallah-Mohammadi）、ハディ・アスガリ（Hadi Asgari）及びアミン・アフシャル・ナデリ（Amin Afshar-Naderi）も、上訴が棄却された後、イランから逃亡した。（2020年）1月、当局はヴィクトル・ベツ・タムラズとシャミラム・イサヴィ夫妻の息子をエヴィン刑務所に召喚し、自宅教会への加入を通じた「体制に反するプロパガンダ」を理由とする2018年からの懲役4か月の刑に服役させた。当局は（2020年）2月26日に彼を刑務所から釈放した。

アーティクル18によると、当局はエブラヒム・フィルージ（Ebrahim Firouzi）の2年間の国内追放を11か月間延長した。政府は、改宗キリスト教徒のフィルージを、キリスト教への改宗と実践及び関連する布教活動による「国家安全保障に反する共謀」の罪で彼が6年間服役した後、ラジャイ・シャフル刑務所から釈放した。彼が量刑に含まれていた2年間の国内追放についてサルバーズ市に報告した後、当局は彼の追放を延長したが、当局曰く、フィルージは母親の死亡に関連する家事に参加する目的で短期帰宅するための適切な許可を得ていなかった。フィルージの追放が延長された後、地元検察官は彼を、最長懲役5年に処せられ得る「神聖なるものの侮辱」と、最長懲役1年に処せられ得る「キリスト教信仰の促進を通じた国家に反するプロパガンダ」という、新たな容疑で召喚した。フィルージと面会した後、検察官は起訴を取下げた。

（2020年）11月18日、国際人権保護機構（International Organization to Preserve Human Rights）が「様々な宗教集団に対するイラン・イスラム共和国の姿勢」に関して開催した

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

バーチャル会議の際、アーティクル 18 の代表者曰く、全員が改宗者であった 17 人のキリスト教徒の良心の囚人が、テヘランのエヴィン刑務所に収監されていた。

(2020 年) 4 月、当局は準公式のイラン労働通信 (ILNA : Iranian Labor News Agency) の最高経営責任者とテレグラム (Telegram) チャネル管理者、マスード・ヘイダリ (Masoud Heydari) とハミド・ハグジョー (Hamid Haghjoo) を、宗教指導者が既定した新型コロナウイルス救済措置を嘲笑する漫画を投稿したことを理由に逮捕した。ILNA 職員は漫画の公表を否定し、彼らは誤って告発されたのだと述べた。警察はヘイダリを釈放した一方、事件の捜査を待つ間、ハグジョーを拘禁した。(2020) 年末時点で新たな情報はなかった。

政府は引続き、情報筋によるとイランの宗教的少数派の中でおそらく最も大きいとされる自由裁量の余地をアルメニア系キリスト教徒が有することを許可した。政府は保全活動をアルメニア系の聖地に拡大し、アルメニア人の子孫である国民やアルメニア人訪問者が自分達の教会や専用クラブの範囲内で宗教的及び文化的な伝統を遵守することを認めた。

BBC ペルシャ語放送によると、(2020 年) 10 月 29 日、コム神学校教師協会 (Qom Seminary Teachers Association) はグランド・アヤトラ・カマル・ヘイダリ (Grand Ayatollah Kamal Heidari) を「嘘つき」、「罪人」及び「外国人の代理人」と称し、彼との如何なる取引も「罪」とみなすよう命じた。同協会はヘイダリの現代主義及び合理主義な見解を理由に彼を破門し、「扇動主義者」と称した。

国連人権理事会 (UN Human Rights Council) 宛の (2020 年) 1 月 28 日の報告書の中で、イラン・イスラム共和国における人権状況に関する特別報告者は、政府が「間違った方向に導かれた」とみなす宗教集団への加入を刑事犯罪とする「誤った方向に導かれた宗派」に関して 2019 年に議会の司法・法務委員会 (Committee for Judicial and Legal Affairs) が採択した法案について「深い懸念を抱いている」と述べた。特別報告者曰く、「ある委員会メンバーによると、この法案は、法理的又は宗教的地位を持たず、自分たちの信念をイスラム教に帰すると捉える宗派に関する懸念と、最近登場してきた狂信的教団に関する懸念を理由に提案された。未公認の宗教的少数派の複数のメンバーが、この法案が可決されると、特定の宗教を信仰することが刑事犯罪となり、同法案はそれらの宗教に対する差別の増強に使われる可能性があるという懸念を表明した。」

(2020 年) 5 月、議会は「誤った方向に導かれた宗派」に関する法制を、イスラム刑法第 499 条と第 500 条の改正という形で可決した。この法制では、「社会の基準から逸脱する心理的操作」又は「イスラム教と矛盾するプロパガンダ」で有罪と認められた者はある

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

「宗派」の一員と称され、投獄、鞭打ち、罰金又は死刑に処され得ると定めている。欧州在住のある人権弁護士によると、「法律は市民を、政府に反対の立場の改宗キリスト教徒やバハーイ教徒を含め保護すべきであるが、イランでは法律が改宗者及び他の未公認の少数派に対する政府の暴力的な取扱いを正当化する手段と化してしまっている」。NGO のアーティクル 18 によると、全ての議会法案を承認しなければならない監督者評議会が

(2020 年) 7 月に法案を差し戻し、8 項目の明瞭化を求め、その大部分は「曖昧な」文言に関するものであった。アーティクル 18 のある職員が警告したところによると、同法制は依然、「異なる、ひょっとしたらもっと最小限の形態」に戻ると予想された。アーティクル 19 (ARTICLE 19) という、英国を拠点とする別の NGO によると、(2020 年) 11 月、議会は監督者評議会から提起された争点を取上げたと考えられるが、具体的な変更は公表されなかった。同 NGO 曰く、改正案は、変更がどうあれ、「表現の自由や信教と信仰の自由に対する権利を一層侵害する」ものになるであろう、とのことであった。

米国平和研究所によると、政府は依然、政府の政策又は最高指導者アリ・ハメネイの見解を支持しない上級シーア派宗教指導者の言明や見解を観察していた。国際メディアによると、当局は依然、シーア派聖職者を逮捕、拘禁、資金削減、聖職者信用状の剥奪、及び財産没収の対象とした。(2020 年) 9 月 5 日のイランワイヤーの報道によると、2019 年後半、当局はエイノラ・レザザデフ・ジュイバリ (Einollah Rezazadeh Juibari) というシーア派聖職者を自宅で逮捕したが、これは 2019 年 11 月の抗議活動の際に政府部隊によって殺害された抗議者の死から 40 日後の追悼式典の準備が始まったときのことであった。当局はまず、過去に何度も逮捕された政府批判筋のジュイバリをウルミア市内の拘禁施設で拘禁した後、ミアンドアブ (Miandoab) 市内の刑務所に連行し、そこで彼は 13 日間のハンガーストライキを執行し、その後釈放された。イランワイヤーによると、ジュイバリの事件は (2020) 年末時点で未決着であったが、彼は、自分の聖職者用の衣類とターバンを永久に脱ぐつもりであり、何故ならそうした聖職者用の衣装は「政治から分離される」必要があるからであると述べる書簡を書いていた。彼の書簡には、政府は「イスラム教法理学を権力掌握のための口実として用い」、政府は「シーア派信仰の真実と権威を [その] 貪欲と引換えに犠牲にした」とも記されていた。

複数の批判筋によると、政府は依然、司法管轄外の特別聖職者裁判所を利用して、非シーア派イスラム教徒聖職者を支配したほか、物議を醸す考えを表明したり、宗教の領域外の活動、例えばジャーナリズム又は改革主義的な政治活動に参加したりしたシーア派聖職者を訴追した。

BBC ペルシャ語放送とタイムズ・オブ・イスラエル (Times of Israel) の報道によると、当局は地元メディアに対し、カリフォルニアを拠点とするゾロアスター教司祭のアラシ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ユ・カスラヴィ（Arash Kasravi）が（2020年）7月25日、ケルマーン（Kerman）州で行われた父親の葬儀に参列中に殺害されたことを追認した。BBC ペルシャ語放送の（2020年）8月2日の報道によると、ケルマーン州検察官が地元メディアに対し、殺害犯の遺体はカスラヴィと一緒に見つかった他の2人のうち1人の身体で、彼は殺害後に自殺したのだと伝えた。検察官によると、司法当局としては、殺害は金銭的な動機によるものと考えられ、何故なら被害者の車両の1台で10,000ドルが発見されたからであった。あるソーシャルメディア投稿によると、1979年革命に続き、多数のゾロアスター教徒がこうした類の「不可解な殺人」の標的にされてきた。

複数の情報筋によると、たとえ逮捕されても、バハーイ教徒に対する犯罪の実行犯は、被害者の宗教上の身分に基づく行為であったと言明すれば減刑されていた。

相変わらず、当局がバハーイ教徒の事業に制限を課す、又は彼らがバハーイ教の休日に従って一時的に休業したあとに強制的に営業停止させているという報告、あるいは法律により、事業者は年間15日を上限として理由を提示しなくても休業できるにも関わらず、当局が閉鎖を示唆して店舗所有者を脅迫しているという報告が寄せられた。また複数のNGOによると、政府は依然、バハーイ教徒の自宅や事業所を強制捜索し、私有財産や商業用財産のほか、宗教関連資材を没収していた。

政府は、1979年革命後に押収していた多数のバハーイ教徒の財産（墓地、聖地、史跡及び管理施設など）を保持し続けた。また政府は依然、バハーイ教徒が自分達の宗教的伝統に従って埋葬を行うことも妨げた。イラン人権文書センター（IHRDC : Iran Human Rights Documentation Center）によると、当局は日常的に、亡くなったタブリズ（Tabriz）出身のバハーイ教徒を地元のヴァディ・イ・ラーマト墓地（Vadi-i-Rahmat Cemetery）に埋葬することを妨げた。代わりに彼らは大抵、遺体を100マイル離れたミアンドアブで埋葬するために送ったが、そこで当局は家族が遺体を洗い、バハーイ教徒の埋葬儀式を行うことを許可しなかった。IHRDCによると、バハーイ教徒の宗教慣行では、死者を死亡場所から1時間で移動できる範囲内の場所に埋葬する必要があるが、タブリズとミアンドアブ間の移動時間は約2.5時間である。同報告によると、墓地の場所の当局、すなわちタブリズ市議会（City Council）と東アゼルバイジャン（Eastern Azerbaijan）州政府は、タブリズ市内でのバハーイ教徒の埋葬を禁ずる命令を実行しているのだと述べたが、これらの機関はいずれも係る命令を発出する責任を認めなかった。

BICによると、BICは（2020年）7月、ヤズド州タフト（Taft）市内のバハーイ教徒墓地は1979年革命の直後に政府が没収していたのだが、これが分割され売却されていたことを知った。BICによると、司法当局はマーザンダラーン（Mazandaran）州イヴェル

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

(Ivel) 村のバハーイ教徒住民が所有していた全ての財産について、バハーイ教徒は「邪悪なイデオロギー」を持ち、したがって如何なる財産の「所有権にも正当性」がないという根拠に基づき、没収を是認した。

BIC によると、政府が用いる反バハーイ教徒の巧言は、近年際立って増大した。

複数の人権団体、キリスト教徒権利擁護団体及び NGO によると、政府はキリスト教徒の宗教慣行を規制し続けた。公式報告書やメディアは依然、キリスト教徒の私的な自宅教会を「違法ネットワーク」や「ユダヤ主義プロパガンダ機関」と特徴付けた。複数のキリスト教徒コミュニティ指導者によると、当局は複数のアッシリア系教会指導者が新規改宗者の洗礼又はペルシャ語での説教行っていることを知った際、教会を閉鎖した。複数の NGO によると、イランでペルシャ語を使用する教会は事実上全て、2009 年から 2012 年にかけて閉鎖された。2019 年のラジオ・ファルダの報道によると、「イランの歴史的なアッシリア人とアルメニア人のコミュニティ出身のキリスト教徒は、通常であれば自由に信仰を実践することができる公認の少数派であるが、ペルシャ語での礼拝を開催することによってイスラム教徒として生まれたイラン人に門戸を開かないことが条件である」。また当局は繰返し、未登録又は未公認のキリスト教徒が教会敷地に立入ることを禁じ、後者の立入りを許可した教会を閉鎖した。

複数のキリスト教徒権利擁護団体が引続き、政府は圧力や教会閉鎖を通じ、ペルシャ語を使用するごく少数の教会礼拝以外を全て排除することにより、礼拝をほぼ完全にアルメニア語とアッシリア語に限定していると説明した。治安当局者は、登録済みの礼拝施設を監視して礼拝者の身元確認を行い、非キリスト教徒又は改宗者が礼拝に参加していないことを確認した。対応策として、報告によると多数の改宗キリスト教徒が密かに宗教を実践していた。他の未公認の宗教的少数派、例えばバハーイ教徒やヤルサニ教徒も、私邸に集まって密かに信仰を実践せざるを得なかった。

政府は依然、全ての女性に対し、公の場では「イスラムの衣装」の標準（髪を覆い、全身を緩い衣服 — 外套とヒジャブ、又は代わりにチャドル（頭部と衣服の両方を覆う形で着用する身長に合わせた半円形の布地）で覆うことを含む）に従うことを要求した。政府は時々、そうした衣装に関するルールの強制を緩和したが、一方で「非イスラム的衣装」を逮捕、鞭打ち、罰金及び解雇で処罰した。政府は女性に対する必須のヒジャブ及びイスラムの衣装の要求に反対する公衆の抗議活動を弾圧し続けた。

(2020 年) 11 月 9 日、最高裁判所第 28 支部は、女性権利活動家のサバ・コルド・アフシャリ (Saba Kord-Afshari) がヒジャブ着用義務への抗議に関連する一連の容疑で 2019 年 8

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

月に言い渡された懲役 24 年の判決を不服として行った上訴を棄却した。その結果、彼女は少なくとも 15 年の懲役に服することになり、この量刑は彼女に対する最も重大な容疑、「汚職の拡散」に付随するものであった。(2020 年) 7 月にアムネスティ・インターナショナルが述べたところによると、当局はコルド・アフシャリに対し強制的に、2019 年の逮捕後 1 年待つよう命じ、その後、彼女が刑務所で悪化していた胃腸の既往症のために (2020 年) 6 月 29 日に初めて病院を訪ねることを許可した。またアムネスティ・インターナショナルによると、医師はコルド・アフシャリの包括的な検査を行うことを怠り、彼女の先々の結腸内視鏡検査、内視鏡検査及び超音波措置については他の医師に委任した。VOA によると、コルド・アフシャリは病院到着が遅く、支払のための資金が足りなかったために処置を受けることができないと告げられた。その結果、政府が 2019 年 8 月にコルド・アフシャリをエヴィン刑務所に移送したために彼女の健康問題が悪化した、と VOA は付加えた。

(2020 年) 12 月、当局はナルシン・ソトウデフ (Nasrin Sotoudeh) という著名な、2012 年に欧州議会 (European Parliament) のサハロフ賞 (Sakharov Prize) を受賞した女性人権弁護士を召喚して刑務所に戻したが、これは彼女が刑務所で発症した合併症を理由に釈放されてからわずか 1 か月後のことであった。政府はソトウデフを 2009 年から何度も逮捕していたが、理由は権利擁護者としての彼女の仕事にあった。直近では、政府はソトウデフを 2018 年に逮捕し、これはアムネスティ・インターナショナルの説明によれば「イランのヒジャブ着用強制関連法に反対して抗議する女性の弁護を含む、平和的な人権業務」の結果であった。ある裁判所が 2019 年に彼女に対し、懲役 33 年と鞭打ち 148 回を言い渡した。(2020) 年末時点で彼女はカルカック刑務所に収監されたままであった。

政府は依然、イスラム法に反するとみなす公衆の行動、例えば踊りや、男女が一緒に公の場に姿を現すことなどを抑圧した。

報告によると、当局は依然、バハーイ教徒、サービア・マンダヤ教徒及びヤルサニ教徒の宗教コミュニティのほか、未公認の宗教的少数派による、教育及び政府雇用へのアクセスについて、イランの公認宗教の 1 つに属することを申請様式に記入して申告しない限り、拒否した。

公立及び私立の大学は依然、バハーイ教徒、の入学を拒否し、バハーイ教徒の学生の宗教が判明した場合には退学処分にした。(2020 年) 11 月 1 日のイラン・インターナショナルと HRANA の報道によると、当局は同年の全国大学入学試験を受験した少なくとも 17 人のバハーイ教徒について、学力は十分であるにも関わらず、高等教育を受けることを禁じた。過去数年間と同様に、大学入学試験の実施と学生の順位付けを担当する政府機関、サ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ゼマン・エ・サンジェシュ（Sazeman-e Sanjesh）は、「不完全な情報」や「さらなる調査を要する」といった口実を使ってバハーイ教徒の志願者を拒絶した。（2020 年）11 月 2 日のラジオ・ファルダの報道によると、「アクセスできない（中略）学位を取得できないバハーイ教徒の学生の実際の数はずっと大幅に多いと予想され」、当局者は 2017 年に 70 人のバハーイ教徒の学生を拒絶したとのことであった。イランワイヤーによると、バハーイ教徒の高等教育機関入学禁止は 1980 年に始まり、今年（2020 年）は政府が自国民の高等教育へのアクセスを本人の宗教的信念を理由に拒否するようになってから連続 40 年目であった。

（2020 年）1 月、イラン・イスラム共和国における人権状況に関する国連特別報告者が国連人権理事会に報告したところによると、彼は依然、「宗教的少数派が教育を受ける権利の否認について深く懸念し、バハーイ教徒の学生が要求される試験に合格したにも関わらず大学入学を拒絶されているという報告が相変わらず寄せられている」。

（2020 年）9 月 11 日のラジオ・ファルダの報道によると、新任教育大臣のモフセン・ハジ・ミルザエイ（Mohsen Haji Mirzaei）は明らかに、ある人権団体が 2 日前に公表した説明への応答として、「彼ら [バハーイ教徒] が学校で学ぶことは禁じられている」と述べた。ミルザエイは、当局がセムナン（Semnan）市内のサアデト高等学校（Saadet High School）に対し、ボルナ・ピラストフ（Borna Pirasteh）という学生をバハーイ教徒であるとの理由で第 3 学年への編入を拒否するよう命じた、という同団体の主張に言及していた。

フーゼスターン州バンダル・エ・マーシャフル（Bandar-e Mahshahr）在住のあるサービア・マンダヤ教徒が（2020 年）10 月にイランワイヤーに語ったところによると、法執行要員が日常的に彼のコミュニティに嫌がらせを行っていた。この男性曰く、当局は日常的にサービア・マンダヤ教徒の金細工職人に賄賂を要求していた。別のサービア・マンダヤ教徒の金細工職人によると、警察は既知の窃盗犯と共謀して、サービア・マンダヤ教徒が所有する宝石店を被害に遭わせていた。

（2020 年）1 月の複数の NGO と報道機関の報道によると、ほぼ全ての政府関係及び他の手続に必要な、国が発行する身分証明書で今後可能となるのは、市民がイランの公認宗教の 1 つに属するとして登録することのみであった。CHRI によると、「身分証明書申請者は誰でも、公式のイスラム教徒又は憲法（中略）で認められた 3 つの宗教的少数派の 1 つ（キリスト教、ユダヤ教又はゾロアスター教）の信徒でない場合、嘘をついて、申請書に書かれているそれらの宗教の 1 つを選ぶ必須のボックスにチェックを入れるか、さもなければ身分証明書を受領しないことを選択しなければならない」。身分証明書はあらゆる政

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

府サービス、銀行業務、及び他の取引の大部分に使用される。CHRIによると、この政策は「バハーイ教徒はもとより、マンダヤ教徒、ヤルサニ教徒及びその他、イランで未公認の少数派宗教のメンバーも露骨に差別することになる」。ドイチェ・ヴェレ（Deutsche Welle）の報道によると、バハーイ教徒は信仰により、宗教について嘘をつくことを禁じられているため、新たな身分証明書を申請して公式な身元証明を得ることができない。

（2020 年）7 月 21 日の国連総会（UN General Assembly）宛の報告書の中で特別報告者が述べたところによると、彼は「民族的及び宗教的少数派に対する差別が続いていることを依然、深く懸念している。報告によると、身分証明書申請手続の変更は、少数派宗教集団が様々な必須のサービスを利用することを阻害するものである。申請様式には以前、「その他」を宗教の選択肢に挙げていた。（2020 年）1 月に全国市民登録機構（National Organization for Civil Registration）が報告したところによると、この選択肢は排除されており、つまり人々は 4 つの公認宗教から選ぶことしかできない。「その他」の排除により、未公認の宗教集団、例えばバハーイ教徒、改宗キリスト教徒、ヤルサニ教徒、サービア・マンダヤ教徒及び非信奉者などが、政府サービスや銀行サービスを利用するために必要な身分証明書を取得できなくなるという不安をもたらした。」

（2020 年）12 月 4 日のイランワイヤーの報道によると、政府は州の司法長官宛に、弁護士監督に関する覚書を発行した。開業弁護士を対象とする「治安の傘」の拡張を説明しつつ、この政府書簡には、弁護士協会（Bar Association）が既に行っている業務に加え、法曹界のメンバーによる宗教・道徳上の違反行為に関する報告を受け付ける新たな弁護士監督総局を政府が設立した旨、記載されていた。この覚書で言及されている、可能性のある争点の例として、就業時又はソーシャルメディア上での女性弁護士によるヒジャブ着用義務の不遵守、あるいはイスラム教、イスラム共和国又は最高指導者の原則に対する任意の弁護士のコミットメントに関する疑念が挙げられる。イランワイヤーによると、この新設機関は「一部の弁護士を威嚇し、黙らせ、法曹界から追い出すことになる一方、他の弁護士には国の原則と足並みを揃えるよう強制し、司法の萎縮に繋がるであろう。」

BIC によると、政府は依然、バハーイ教徒が、多くは食品産業に関連する 25 種類余りの仕事に参加することを禁じており、これは政府がバハーイ教徒を「不浄」とみなしているからである。

スンニ派コミュニティのメンバーは依然、モスク業務規制庁（Mosques Affairs Regulating Authority）のウェブサイト上で 2015 年に公表された、運営中のスンニ派モスクがテヘランに 9 か所、全国に 15,000 か所あるとする統計に異議を唱えている。コミュニティメンバーによると、これらの大多数は単に祈祷室又は祈祷者用のレンタルスペースである。国

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

際メディアとスンニ派コミュニティからは依然、当局がテヘランでのスンニ派モスク新設を妨げているという報告が続いた。スンニ派の人々曰く、イランには人口のニーズを満たすモスクが十分でない。政府に反対する立場の3つの報道機関によると、スンニ派はテヘラン市内にモスクを持つことを許可されていない。

(2020年)5月25日のドイチェ・ヴェレの報道によると、ラザヴィ・ホラーサーン州指導局 (Guidance Office) の顧問であるモハンマド・バケル・タバタバイ (Mohammad Baqer Tabatabai) がザヘダン市内のマキ (Maki) モスク (イランで最大かつ最も文化的意義のあるスンニ派モスク) を、自身のツイッター・アカウント上で「腐敗の館」と称し、破壊を呼掛けた。一般市民から抗議を受けた後、彼はツイートを削除した。マキ・モスクは1353年に、スィースターン・バルーチェスターン州の州都であるザヘダン市に建造された。少数派のスンニ派バローチ人にとっては宗教的及び文化的に意義があり、報告によるとこれらの人々は中央政府と無関係にこの建物の維持に貢献した。

政府は彼らが独自のモスクを建造又はそこで礼拝することを禁じたため、複数のスンニ派指導者によると、彼らは引続き、一時的な地下礼拝堂、別名ナマズ・ハーネ (*namaz khane*) (改宗キリスト教徒が地下教会内の非公式のチャペル又は礼拝室を指す意味で使うものと同じ用語) を頼りに宗教を実践している。治安当局者は、こうした権限を有さない場所に立ち入り続けた。

報告によると、MOIS 及び法執行当局者は、神秘主義者 (Sufis) とその指導者への嫌がらせを続けた。複数のメディア及び人権団体によると、ゴナバディ教団の指導者、ノール・アリ・タバндеフの演説を掲載する同教団のマザール・ソルタニ (*Mazar Soltani*) というウェブサイトや、神秘主義に関する記事が検閲され続けていた。

複数の国際メディア及び NGO によると、キリスト教の実践又はキリスト教への改宗の抑止を狙いとする、政府後援のプロパガンダが続いていた。モハバト・ニュース (*Mohabat News*) によると、政府は日常的に反キリスト教の刊行物やオンライン資料、例えば2017年の書籍「キリスト教地域におけるキリスト教徒のユダヤ主義」(*Christian Zionism in the Geography of Christianity*) などを宣伝した。

サービア・マンダヤ教徒及びヤルサニ教徒の宗教コミュニティメンバーによると、当局は依然、彼らが公の場で宗教関連式典を行うための許可を拒否し、彼らの礼拝場所の建築許可も拒否した。アフヴァズ市内のサービア・マンダヤ教徒コミュニティメンバーで、イランワイヤーが「セリム」(Selim) として特定した人物によると、「アフヴァズ市のマンダヤ教徒は公営墓地に埋葬されることを許可されない」。(2020年)12月31日のラジオ・フ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

アルダの報道によると、「バハーイ教徒やヤルサニ教徒を含む少数派及び反体制派の墓や墓石の破壊は、イスラム共和国支持者の日常生活の一部と化した」。この報道によると、治安部隊がバハーイ教徒に対し、ギラヴァンド（Gilavand）、タブリーズ、ケルマーン及びアフヴァズを含む多数の都市で遺体を埋葬する権利はもはやない、と警告した。

複数のヤルサニ教徒によると、軍及び学校制度での差別や嫌がらせが続いた。また彼らは依然、出生登録制度のせいで子供にヤルサニ教徒の名前を付けることができないとも訴えた。（2020年）2月に米国平和研究所の「イラン読本」（*Iran Primer*）に掲載された記事によると、「現政権はこの集団に対し、ヤルサニ教徒の礼拝場所、宗教的モニュメント、クルド語での宗教的演説、刊行物、教育及び通信の弾圧によって差別してきた。またヤルサニ教徒は就職も困難で、イランの諜報機関による逮捕や尋問に直面してきた。」

テヘラン・ユダヤ人委員会（Tehran Jewish Committee）によると、テヘラン市内でユダヤ人学校が5校、幼稚園が2園、運営を続けているが、当局はそれらの校長がイスラム教徒であることを要求している。ユダヤ人委員会によると、政府は引続きヘブライ語での授業を許可しているが、ヘブライ語の教科書、特に非宗教関連の教科書の配布を制限し、ヘブライ語での指導が難しくなっている。

複数のキリスト教関連 NGO によると、既刊の宗教教材に対する政府の制限が続き、例としてキリスト教に関して以前は入手可能であった書籍の没収が挙げられるが、報告によると、政府が認可する翻訳版の聖書は引続き入手可能であった。政府当局者は頻繁に、聖書や関連の非シーア派宗教文献を没収し、未認可の非イスラム教宗教教材を印刷する出版業者に営業を止めるよう圧力を掛けた。ヤルサニ教に関する書籍は禁止されたままであった。宗教的少数派が出版する書籍は、内容を問わず、非シーア派イスラム教徒が著者であることを示すラベルを表紙に記載するよう要求された。

スンニ派指導者からは相変わらず、当局がスンニ派の宗教文献と一部の公立学校における宗教課程の指導を、スンニ派が支配的な地域でさえ禁じているという報告が続いた。他の学校は、特にクルド人地域で、専門のスンニ派宗教課程を含めていた。複数のアッシリア系キリスト教徒によると、政府は引続き、彼らのコミュニティが学校で独自の教科書を使用することを許可したが、内容を政府が認可した後に限られた。アルメニア系キリスト教徒も、選択された学校で自分達の慣行をアルメニア人の生徒に選択科目として教えることを許可された。未公認の宗教的少数派、例えばヤルサニ教徒やバハーイ教徒からは依然、宗教文献を合法的に制作又は配布することができないという報告が続いた。

スンニ派の人々の報告によると、彼らが過半数を占める州、例えばクルディスタン州やフ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

一ゼスタン州で、政府が任命する役職に彼らが占める割合が少ないほか、上級の政府役職に就くことができない。スンニ派活動家からは依然、当年（2020 年）中ずっと、特にモハラム（Moharam）の月の間、政府がスンニ派バローチ人の多い地域に、地元住民の改宗を目論んで数百人ものシーア派伝道者を派遣したという報告が続いた。

バローチ人の情報筋によると、当年（2020 年）中、政府がスンニ派バローチ人の多い地域に、地元住民の改宗を目論んで数百人ものシーア派伝道者を派遣した。

入手可能な最も新しい報告である 2018 年からの報道によると、テヘラン市内に 13 か所、イラン全土では約 35 か所のユダヤ教礼拝堂がある。複数のユダヤ人コミュニティ代表者によると、彼らは自由にイランを入出国することができ、政府は概してユダヤ人によるイスラエルへの渡航禁止を強制しないものの、他の市民についてはそのような渡航禁止を強制した。

政府当局者は依然、公式声明に反ユダヤ主義の修辞を用い、そうした修辞を報道、刊行物及び書籍で使用することを認可した。名誉棄損防止連盟（Anti-Defamation League）によると、新型コロナウイルス感染拡大に関して（2020 年）3 月に最高指導者が演説を行った後、彼の事務所のウェブサイトがある聖職者による、「ユダヤ人、特にシオニストは以前から、超自然の出来事や事案、例えば悪魔や精霊との関係に対処してきた長い歴史があることに疑問の余地はない」という所見を掲載した。名誉棄損防止連盟によると、新型コロナウイルスの陰謀説のほとんどは、政府が想像するところでは米国により、「ユダヤ人資本家又はイスラエルの助けを借りた、又はイスラエルの利益を目論む、又はユダヤ人の黒幕の命を受けた生物攻撃」を先導するものとして拡散した。名誉棄損防止連盟によると、全世界的な健康上の危機に関する政府のプロパガンダのもう 1 つの中心的テーマは、ユダヤ人が完全に力を持つ又は世界支配を追求するという陰謀説であった。

（2020 年）9 月、政府のある芸術機関の責任者、マスド・ショジャエイ・タバタバイ（Masud Shojaei-Tabatabai）が、ホロコーストを否定する漫画の展示会を再び開催する計画を発表し、政府はこれを 2006 年と 2016 年にも開催していた。預言者モハンマドを描いたシャルリー・エブド（Charlie Hebdo）の漫画を生徒に見せた教師がフランスで斬首された後、ショジャエイ・タバタバイがテヘラン・タイムズ（Tehran Times）に語ったところによると、「我々の〔展示〕プログラムではホロコーストに異議を唱える真剣な芸術作品を公表する。1 つの侮辱的な漫画について、我々は 10 点の漫画をソーシャルメディア及び他の仮想空間で公表する予定である」。フランスのマクロン（Macron）大統領が、殺害された教師による世俗主義と個人の自由の表現を擁護した後、最高指導者はツイッター上で、「ホロコーストについて疑問を提起するのが何故犯罪なのか？何故、そうした疑問に

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ついて著述する者が投獄される一方で預言者の侮辱（pbuh [彼に平安あれ]）が許されるのか？」と問うた。

政府は引続き、公認の少数派宗教集団がコミュニティセンターや、自己資金による文化、社会、スポーツ及び慈善関連の協会を設立することを許可した。

（2020年）12月16日、国連総会は、イラン・イスラム共和国における人権状況に関する決議を承認した。総会はこの措置を、賛成国 82、反対国 30、棄権国 64 の投票により可決した。この決議は 45 の加盟国による共同提案であったが、「思考、良心、宗教又は信念の自由を得る権利に対する継続的な厳しい制約と制限強化、礼拝場所の設立に対する制限、宗教的教義に従って行われる埋葬に対する不当な制限、礼拝場所や埋葬場所に対する攻撃、及び他の人権侵害（以下略）」について懸念を表明した。これらの侵害には「公認及び未公認の少数派（キリスト教徒、ゴナバディ教団、ユダヤ教徒、スーフィー・イスラム教徒、スンニ派イスラム教徒、ヤルサニ教徒、ゾロアスター教徒及びバハーイ教徒を含む）に属し、自分達の信仰を理由にイラン・イスラム共和国政府からの制限強化に直面し、報告によると一斉逮捕や長期の懲役刑の対象とされてきた人々に対する暴力に繋がる嫌がらせ、威嚇、迫害、恣意的な逮捕と拘禁、及び憎悪の扇動」が含まれた。同決議では政府に対し、「宗教上の身分を理由とする個人の監視を止めること、公認又は未公認の少数派宗教集団への加入又はそれらを代表する活動を理由に投獄された全ての宗教実践者を釈放すること、そして誰もが、自分で選ぶ宗教又は信念を持つ又は採用する自由を含め、思考、良心及び宗教又は信念の自由を得る権利を有する状況を確保することを、市民的及び政治的権利に関する国際規約の下での義務に従って行う（以下略）」よう求めた。

寄付による宗教慈善財団、現地語でボニャド（*bonyads*）は、一部の専門家によると、イラン経済の 4 分の 1 から 3 分の 1 を占めた。複数の NGO によると、政府内部関係者は、軍人や聖職者を含め、これらの免税組織を運営し、法律ではこれを慈善活動と定義している。野党や国際的汚職監視組織のメンバーは頻繁に、ボニャドが汚職を働いていると非難した。ボニャドは政府から給付金を受給するが、政府機関がボニャドの予算を公然と承認するという要件はなかった。

ラジオ・ファルダによると、コム市内で複数の宗教指導者が商店に対し、バレンタインデーはキリスト教の伝統に根差すものであることから、それに関連する贈答品を売らないよう警告した。ラジオ・ファルダによると、イランの法執行機関は毎年、そうした商品の販売を禁ずる警告を商店に出し、守らない場合は 1 か月から 6 か月間営業停止させると言っている。同報道によると、一部の非宗教的市民が、イランのイスラム教以前の過去からの受胎の女神であるセパンドルマズ（Sepandarmaz）の日を祝う 2 月 19 日の祝賀を促

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

進しようと試みてきた。イランの宗教指導者はセパンドルマズがゾロアスター教、つまりイランの支配的宗教としてイスラム教に取って代わられた宗教に由来するものであることから、セパンドルマズに反対した。

第3節 宗教の自由に対する社会的尊重の現状

イランワイヤーによると、(2020年)11月前半にケルマーンシャーで行われた金曜祈祷会の際、スンニ派聖職者のムラハミド・ファラジがヤルサニ教徒を異端者、悪魔崇拝者

(Satanist) 及びイスラム教徒の敵と称した。「ヤルサニ教徒は我々の兄弟ではない」と彼は信徒に語り、「兄弟の間柄はイスラム教においてのみ成立し得る」と付け加えた。イランワイヤーによると、ヤルサニ教徒コミュニティメンバーによる抗議が相次ぎ、その後数日にわたり機運が高まり、ソーシャルメディア上で発言を撤回するよう促したが、彼はイスラム共和国の敵がこの区域でイスラム教徒とヤルサニ教徒の分断の原因を作ろうとして彼の言明を歪め、不正確に伝えていたのだと述べた。彼はこれらの「敵」をユダヤ教徒、キリスト教徒及びシオニストと定義した。

ラジオ・ファルダによると、イランで最上位のスンニ派聖職者、モラヴィ・アブドルハミド・イスマイールザヒはソーシャルメディア上で、アル・ムスタファ国際大学で学んでいる中国人シーア派学生がイランに新型コロナウイルスを持ち込んだと告発するビデオを投稿した。同大学は声明の中で、このスンニ派指導者は自身の告発を裏付ける証拠がなく、最上位の宗教聖職者は公的発言にもっと注意すべきであると述べた。イラン・ニュースによると、同大学はさらに、「アブドゥルハミドを、アル・ムスタファ国際大学を非イラン人学生の洗脳を理由に告発したとして激しく非難した。」

アフヴァズ市内のサービア・マンダヤ教徒コミュニティのあるメンバーによると、彼はここ数年、同コミュニティに属する1つの寺院と他に12の建物の破壊を目撃してきた。別のサービア・マンダヤ教徒は、「2015年以降、マンダヤ教徒の墓の破壊が国内の随所で何度も発生してきたが、我々の抗議が聞入れられたことがあっただろうか？」と述べた。

ラジオ・ファルダによると、ヤルサニ教徒の墓は攻撃又は無礼な行為のいずれに対しても安全でなく、ヤルサニ教徒の墓地や霊廟は国内のケルマーンシャー市や他の場所で繰返し被害を受け、破壊された。

報道機関及びNGOの報告によると、(2020年)5月14日、ツイッター上での脅迫に続き、ある男が、ハマダン市内のユダヤ教の聖地であるエステル・アンド・モルデチャイ寺院に侵入し、墓地に放火しようとした。イランの公式通信社であるIRNAは、最初に攻撃

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

を確認したが後にウェブサイトから報告を削除しており、曰く、寺院に重大な被害はなかった。この攻撃は、(2020 年) 2 月の、米国とイスラエルを標的とする復讐行為として政府が同寺院の破壊を検討しているという報告を受けてのものであった。ハマダンの検察官、ハッサン・ハンジャニ (Hassan Khanjani) が準公式の ISNA 通信社に語ったところによると、警察は火災の原因について結論に至らず、逮捕者はいなかった。

バハーイ教徒及び彼らの権利を擁護する人々によると、バハーイ教徒は依然、社会的汚名と暴力の主要な標的であり、実行犯は行為を続けても刑事責任を問われないとされていた。

相変わらず、非バハーイ教徒がバハーイ教徒を解雇又は雇用を拒否しているという報告が寄せられ、それらは BIC 及びその他、バハーイ教徒の状況を観察している団体によると、時には政府からの圧力に応じてのことであった。BIC からは相変わらず、バハーイ教徒の信仰に基づく、彼らに対する身体的暴力の事例の報告が寄せられた。複数のバハーイ教徒によると、彼らの墓地が破壊されたり荒らされたりし続けていた。

国外の複数のヤルサニ教徒によると、ヤルサニ教徒に対する広範な差別が続いていた。彼らによると、ヤルサニ教徒の子供は学校や共同コミュニティ施設で社会的に仲間外れにされていた。ヤルサニ教徒の男性は彼ら特有の髭で認識できるが、雇用差別に直面し続けていた。複数の報告によると、シーア派の説教師が相変わらずヤルサニ教徒に対する社会的差別を奨励していた。

CSW、オープン・ドアーズ USA などを含む人権 NGO によると、イスラム教からキリスト教への改宗者は家族又はコミュニティメンバーによる社会的圧力や拒絶に直面し続けていた。

報告によると、シーア派の聖職者や祈祷指導者が依然、説教と公式声明の両方で、スーフィズムとスーフィーの活動を糾弾していた。

複数のスンニ派学生によると、教授陣が依然、日常的に授業でスンニ派の聖人を侮辱していた。

(2020 年) 6 月、オランダを拠点とする NGO のイラン国内姿勢分析・測定グループが ABC と共同でオンライン・サーベイを実施し、イラン社会における前例のない脱宗教化という結果を示した。著者らによると、40,000 人の世論調査結果から、イランの宗教性の劇的な変化が明らかとなり、脱宗教化の増大と、信仰や信念の多様性が認められるとの

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ことであつた。このサーベイでは、回答者のうちイスラム教徒と判明したのはわずか 40 パーセントであつたが、対照的に政府のデータによると国民の 99.5 パーセントがイスラム教徒である。同サーベイでは回答者の 32 パーセントが明示的にシーア派であると名乗った一方、スンニ派イスラム教徒と回答したのは 5 パーセント、スーフィー・イスラム教徒と回答したのは 3 パーセントであつた。別の 9 パーセントは無神論者と回答し、これと併せて 7 パーセントは自分の宗教を表わすものとして「精神性」という呼称を好んだ。他の選択された宗教のうち、8 パーセントはゾロアスター教徒であると回答し、これについて世論調査員は、ゾロアスター教の厳格な遵守ではなくむしろペルシャ国家主義やイスラム教に代わる選択肢を求める願望の反映であると解釈した一方、1.5 パーセントはキリスト教徒であると回答した（複数のキリスト教徒集団によると、イランで 75 万人～100 万人のキリスト教徒がいることになる）。調査対象者のうち、78 パーセントは神を信じると回答した一方、死後の生活を信じる者はわずか 37 パーセント、天国と地獄を信じる者はわずか 30 パーセントであつた。約 25 パーセントは精霊（悪霊）を信じると回答した。

第 4 節 米政府の政策と関与

米国はイランと外交関係がなく、したがってイランにおける宗教の自由の侵害や制限について、政府との二者間協議で懸念を提起する機会がなかった。

（2020 年）2 月 6 日に行われた国家朝食祈祷会（National Prayer Breakfast）向けの演説の中で、大統領は、（2020 年）1 月に発生した反政府抗議活動の際に改宗キリスト教徒のメアリー・モハンマディ（Mary Mohammadi）が逮捕されたことに懸念を表明し、これは大統領曰く、彼女がキリスト教に改宗したことが原因であつた。国務長官は後に、あるインタビューに、この逮捕で深く困惑したと語った。

米政府は引続き、公の場及び多国間協議の場で、宗教の自由の尊重をイラン政府に呼掛け、また宗教的少数派の虐待についても様々な形で、様々な国際討論の場で糾弾し続けた。例として、米政府高官による公式声明、ソーシャルメディアの活用、米政府機関発行の報告書、関連する国連や NGO の取組の支援、外交イニシアティブ、及び制裁措置が挙げられる。米政府高官は公の場で、宗教上の理由で収監された受刑者の釈放を繰返し要求した。

（2020 年）1 月 15 日、国際宗教自由担当無任所大使（Ambassador at Large for International Religious Freedom）は、「[2019 年 12 月 24 日の] ノール・アリ・タバンド博士の悲劇的な死去の後、我々はイラン政府によるゴナバディ・スーフィーの扱い方を密接に監視している。当局は不当に拘禁された人々を釈放し、コミュニティが政府から干渉されることな

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。
また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

く自分達の宗教指導者を選ぶことを認めるべきである」とツイートした。

(2020 年) 10 月 16 日、国務省報道官は、「イランがモハンマド・レザ・オミディに対し、聖礼典用ワインを飲んだことを理由に 80 回の鞭打ちを行ったという報告で深く困惑している。彼は既に、自宅教会への所属を理由に 2 年間服役していた。我々はこのように不当な処罰を糾弾すると共に、イランに対し、全てのイラン人に自分の宗教を実践する自由を与えるよう強く促す」とツイートした。

(2020 年) 9 月 24 日、米国は、過度の人権侵害や、自分の宗教を実践することを追求する人々の自由の権利の否認を理由として、サイイド・マフムード・サダティ裁判官、モハンマド・ソルタニ裁判官、シラズ革命裁判所第 1 支部、アデル・アバド刑務所、オルミーエ刑務所及びヴァキラバード刑務所を含む数人の当局者や事業体に対して制裁措置を取った。声明文には、「ソルタニ裁判官はイラン在住のバハーイ教徒に表現の自由又は信教の自由の行使に関連する疑わしい容疑による量刑を言い渡した責任を問われる」及び「オルミーエ刑務所は少数民族や宗教的少数派集団及び政治犯に対し、殴打や鞭打ちを含む虐待を行った」と記載されていた。声明文ではさらに、「本日米国によって取られた措置はイランの革命裁判所及びそれぞれの裁判官の実態、すなわち現政権の残忍なイデオロギーを強制し反体制派を抑圧する目的で設計された道具であることを世に示すものである。それらは司法を公正に施すどころか、イラン人民から適正手続はもとより、人権と基本的自由を奪うことを追求している。米国は引き続き、イラン人民の味方であり、現政権にはイラン人民を相応しい敬意と尊厳を以て扱うよう要求する」と付け加えた。

(2020 年) 5 月にハマダン市内のエステル・アンド・モルデチャイ墓地で起こった放火未遂を受け、反ユダヤ主義監視撲滅特使 (Special Envoy to Monitor and Combat Anti-Semitism) はイラン政府に対し、ツイートで「扇動を止め、ユダヤ人及び他の少数派を尊重すること」を呼掛けた。曰く、米国がこの攻撃を強く糾弾しており、イラン政府は「反ユダヤ主義を後援する世界の主たる国家である。」

1999 年以降、イランは宗教の自由に対する特に深刻な侵害に関与又は係る侵害を容認したとして、1998 年国際宗教自由法の下で CPC に指定されている。(2020 年) 12 月 2 日、国務長官はイランを CPC に再指定し、既存の制裁については、2012 年イラン脅威削減及びシリア人権法 (TRA) 第 221 条(c)項の下での、同法第 402 条(c)(5)項の定めるところによる、深刻な人権侵害との関連で同法第 221 条(a)(1)(c)項の下で特定される個人に対する渡航制限の継続として特定した。